

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 人間の理解 I				担当教員 氏名: 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。						自己実現、自律と自立、利用者の権利、専門職の価値観、自立支援
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6		
A 知識・理解力	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解できる。					
C 論理的思考力	「人間」に関して、複眼的、論理的に分析し、表現できる。					
E 自己管理能力	介護福祉士として、自らを律して行動できる。					
G 倫理観	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークを活用し、学生相互の理解を深める。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:第8回目と第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:第8回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション～人間とは～				【事前】テキスト第1章第1節1を読む 【事後】①の復習		
②よりよく生きるとは?～人間の欲求～				【事前】テキストのP53の図:「意欲と行動の理解」を理解してくる。 【事後】②の復習		
③自己実現と価値観				【事前】テキスト第1章第1節2を読む 【事後】③の復習		
④人間の自律と自立				【事前】テキスト第1章第1節3を読む 【事後】④の復習		
⑤福祉専門職の価値観とは～介護福祉士会倫理綱領から考える～				【事前】介護福祉士会倫理綱領を読む 【事後】⑤の復習		
⑥DVD学習①～生きるとは～				【事後】⑥の復習		
⑦DVD学習②～介護福祉士として利用者の「生きる」支援とは～				【事前】テキストP29事例「よく生きるということ」を読む 【事後】⑦の復習		
⑧介護福祉士として利用者の「生活支援」をどう考えるか・中間まとめ				【事前】①～⑦の復習		
⑨「人権」って何?～人が人として生きるうえでの権利～				【事前】テキスト第1章第2節を読む 【事後】⑨の復習		
⑩利用者の権利とは?～介護福祉士が利用者の権利を擁護するとは?～				【事前】テキスト第2章第1節1を読む 【事後】⑩の復習		
⑪自立支援～介護福祉士が利用者の自立を支援するとは?～				【事前】テキスト第2章第1節2を読む 【事後】⑪の復習		
⑫利用者の尊厳①～利用者の生きる実感～				【事前】テキスト第2章第2節1を読む 【事後】⑫の復習		
⑬利用者の尊厳②～介護場面における利用者の尊厳保持とは?～				【事前】テキスト第2章第2節2を読む 【事後】⑬の復習		
⑭利用者の尊厳③～利用者の尊厳保持と自立支援～				【事前】テキスト第1章第2節の事例を読む 【事後】⑭の復習		
⑮介護場面における介護福祉士の役割・まとめ				【事前】⑨～⑭の復習		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規				その他参考文献など: 「福祉の哲学」阿部志郎 著 誠信書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名： 人間の理解Ⅱ				担当教員 氏名： 宮嶋 潔、松尾 祐子、寺岡 栄一		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。					自己覚知、ラポール、コミュニケーション、面接技術	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
B 専門的技術	介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。					
E 自己管理能力	介護福祉士として、自らを律して行動できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	他者と協調・協働して行動できる。					
G 倫理観	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。					
H コミュニケーション力	福祉専門職として他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につける。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 50 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、演習に対する取り組みや態度について評価する。 本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークを活用し、学生相互の理解を深める。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第2回目以降、毎回の授業終了後に自己評価を実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート課題に評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①全体オリエンテーション～自己紹介～				演習を振り返る		
②自己覚知～自分の価値観について～				演習を振り返る		
③自己理解・他者理解～ライフストーリー～				演習を振り返る		
④支援関係における人間関係の形成～ラポールの形成～				演習を振り返る		
⑤対人関係とコミュニケーション①～一方向のコミュニケーションと双方向のコミュニケーション～				演習を振り返る		
⑥対人関係とコミュニケーション②～言語的メッセージ、準言語的メッセージ、非言語的メッセージ～				演習を振り返る		
⑦対人関係とコミュニケーション③～対人空間のとり方(面接の環境づくり)～				演習を振り返る		
⑧介護福祉士にとってのコミュニケーション技術の必要性・中間まとめ				演習を振り返る		
⑨コミュニケーションの技法①～傾聴～				演習を振り返る		
⑩ビデオ学習～信頼関係を結ぶ面接技術～				演習を振り返る		
⑪コミュニケーションの技法②～開かれた質問と閉ざされた質問～				演習を振り返る		
⑫コミュニケーションの技法③～効果的な質問～				演習を振り返る		
⑬認知症高齢者とのかかわり方①～バリデーション～				演習を振り返る		
⑭認知症高齢者とのかかわり方②～回想法～				演習を振り返る		
⑮介護福祉士と利用者とのかかわり方について・まとめ				演習を振り返る		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習のため、積極的な参加を心がけてください。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 社会と制度の理解 I				担当教員 氏名: 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。						生活時間、生活支援、社会保障(制度)、福祉六法
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力		人間を捉える視点で、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解できる。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解できる。				
C 論理的思考力		「社会保障」に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。				
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第7回目と第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 第7回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション～自立した生活を営むとは～				【事前】テキスト第1章第1節1を読む 【事後】①の復習		
②生活時間について～他者との比較～				【事前】自分の生活時間を記録 【事後】②の復習		
③家族とは～家族の機能と役割～				【事前】テキスト第1章第2節を読む 【事後】③の復習		
④地域と社会～コミュニティとアソシエーション～				【事前】テキスト第1章第3節を読む 【事後】④の復習		
⑤ライフスタイルの変化と社会構造の変容				【事前】テキスト第1章第4・5節を読む 【事後】⑤の復習		
⑥生活支援と福祉～自助・共助・公助～				【事前】テキスト第1章第6節を読む 【事後】⑥の復習		
⑦家族、地域・社会に対する介護福祉士が果たすべき役割とは・中間まとめ				【事前】①～⑥の復習		
⑧社会保障(制度)～私たちが利用してきた社会保障制度は?～				【事前】テキスト第2章第1節を読む 【事後】⑧の復習		
⑨DVD学習～社会保障制度について考える～				【事前】テキスト第2章第3節を読む 【事後】⑨の復習		
⑩社会福祉の制度①～社会福祉制度の歴史と変遷～				【事前】テキスト第2章第2節を読む 【事後】⑩の復習		
⑪社会福祉の制度②～福祉六法～				【事前】福祉六法の概観を理解する 【事後】⑪の復習		
⑫DVD学習～社会福祉制度・サービスについて考える～				【事前】テキスト第2章第3節を読む 【事後】⑫の復習		
⑬社会保障と関連制度				【事前】テキスト第2章第4節1～3を読む 【事後】⑬の復習		
⑭DVD学習～これからの社会保障制度を考える～				【事前】テキスト第2章第4節4を読む		
⑮介護福祉士と社会保障制度・まとめ				【事前】⑧～⑭の復習		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座2「社会と制度の理解」中央法規 「福祉小六法」中央法規				その他参考文献など: 「厚生労働白書」(毎年発行)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名： 社会と制度の理解Ⅱ				担当教員 氏名： 宮嶋 潔、茂古沼 江里、鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。また、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識も介護実践に関連づけて習得する。					介護保険制度、障害者総合支援法、日常生活総合支援事業、成年後見制度	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力		介護保険制度と障害者総合支援制度について、理解することができる。また、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識も介護実践に関連づけて理解できる。				
C 論理的思考力		介護保険制度と障害者総合支援制度や関連制度について、複眼的、論理的に分析し、表現できる。				
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回目と第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 第8回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【宮嶋】オリエンテーション～介護保険制度と障害者総合支援法～				【事前】テキストの目次を読んで学ぶことの概要をつかむ 【事後】①の復習		
②【茂古沼】介護保険制度はなぜ作られたか?				【事前】テキスト第3章第1節を読む 【事後】②の復習		
③【茂古沼】介護保険制度のしくみ				【事前】テキスト第3章第2節1～3を読む 【事後】③の復習		
④【茂古沼】介護保険サービスの種類(1)～改正前～				【事前】テキスト第3章第2節5・6を読む 【事後】④の復習		
⑤【茂古沼】介護保険サービスの種類(2)～改正後～				【事前】テキスト第3章第2節7・8を読む 【事後】⑤の復習		
⑥【茂古沼】介護保険制度における組織・機関の役割				【事前】テキスト第3章第3節を読む 【事後】⑥の復習		
⑦【茂古沼】介護保険制度は成功か失敗か?				【事前】テキスト第3章第4・5節を読む 【事後】⑦の復習		
⑧【茂古沼】介護福祉士と介護保険制度:中間まとめ				【事前】①～⑦の復習		
⑨【鷹西】障害者にとっての「障害」は個性なのか?				【事前】テキスト第4章第1節1を読む 【事後】⑨の復習		
⑩【鷹西】障害者福祉の変遷～障害者総合支援法までの障害者福祉～				【事前】テキスト第4章第1節2・3を読む 【事後】⑩の復習		
⑪【鷹西】障害者総合支援法の背景としくみ				【事前】テキスト第4章第2節1～4を読む 【事後】⑪の復習		
⑫【鷹西】障害者総合支援法におけるサービスの種類				【事前】テキスト第4章第2節5～7を読む 【事後】⑫の復習		
⑬【鷹西】障害者総合支援法における組織・機関の役割				【事前】テキスト第4章第3節を読む 【事後】⑬の復習		
⑭【鷹西】障害者の権利を守る制度～日常生活総合支援事業と成年後見制度～				【事前】テキスト第5章を読む 【事後】⑭の復習		
⑮【鷹西】保健・医療・福祉に関する施策・まとめ				【事前】⑨～⑭の復習		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座2「社会と制度の理解」中央法規 「福祉小六法」中央法規				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 【茂古沼】高岡市の介護保険の手引き		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、福祉の制度の変化は早いので日頃から新聞等で動向を確認するよう心がけること。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 介護の基本 I				担当教員 氏名: 新任教員		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
4	1年次	前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本科目は介護領域の基盤となる科目です。介護の目的、求められる介護福祉士の全体像について理解する。また、介護福祉士の専門領域である生活や生活障害の理解、生活を流れ捉え、その人らしい生活支援への視点についての基礎知識を習得する。						生活 その人らしさ 生活支援
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)⇒		2. 4. 5. 6.	
A 知識・理解力			介護福祉士の役割や専門性を理解することができる			
C 論理的思考力			利用者主体の介護を常に考えることができる能力を養う			
G 倫理観			利用者の尊厳を遵守できる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: 20 %		発表: 10 %		実技試験: %
						その他: 30 %
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本とする。30%はボランティア参加、レポート作成、発表にて評価とする。その他30%講義中に生活の個別性と多様性、生活障害の理解、生活を流れ捉え、その人らしい生活支援に関するグループワーク等の演習を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 15回目と30回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 試験やレポートの結果を本人に伝えます。						
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座3「介護の基本 I」中央法規出版 「介護福祉用語辞典」				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 生活することについてしっかり考えましょう。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
回数						
1	オリエンテーション 介護福祉士を目指す動機を考える 生活支援の全体像を理解する				介護福祉士をめざす動機や、めざす介護福祉士について考える。	
2	介護福祉士の魅力と役割を学ぶ 介護福祉士からの特別講義 介護職員の仕事とは何かを理解する				介護福祉士をめざす動機や、めざす介護福祉士について考える。レポート作成。	
3	生活とは何かを理解する 生活を支える5つの視点を理解する				テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章	
4	生活支援を理解する 生活の個別性と共同性を理解する				テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章	
5	生活の特性1 食事の生活支援を理解する				テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章	
6	生活の特性2 排泄の生活支援を理解する				テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章	
7	生活活動の理解1 活動の生活支援を理解する				テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章	

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 介護の基本 I		担当教員 氏名: 新任教員
8	生活活動の理解2 清潔の生活支援を理解する	テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章
9	高齢者や障害をもった人たちの暮らし1 睡眠・休養の生活支援を理解する	テキスト「認知症の理解」第4章 テキスト「障害の理解」第2章 第3章
10	高齢者や障害をもった人たちの暮らし2 ユニットケアとは何か、その魅力と内容を理解する	テキスト「認知症の理解」第4章 テキスト「障害の理解」第2章 第3章
11	要介護状態・障害をもって生きることを、支える介護1 高齢者施設での生活支援を理解する	テキスト「認知症の理解」第4章 テキスト「障害の理解」第2章 第3章
12	要介護状態・障害をもって生きることを、支える介護2 障害者施設での生活支援を理解する	テキスト「認知症の理解」第4章 テキスト「障害の理解」第2章 第3章
13	社会課題としての高齢者介護1 身体拘束について理解する	テキスト「認知症の理解」第4章 テキスト「障害の理解」第2章 第3章
14	社会課題としての高齢者介護2 高齢者虐待について理解する	テキスト「認知症の理解」第4章 テキスト「障害の理解」第2章 第3章
15	まとめと中間評価 介護福祉士に求められる生活支援を理解する	
16	その人らしさとは1 パーソン・センタード・ケアを理解する	テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章
17	その人らしさとは2 高齢者ソフト食を理解する	テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章
18	その人らしさとは3 地域密着型サービスを理解する	テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章
19	その人らしさとは4 懐かしさを楽しむ生活支援を理解する	テキスト「社会と制度の理解」第1章 テキスト「生活支援技術 I」第1章 第3章
20	その人らしさとは5 回想法を用いた生活支援を理解する	テキスト「生活支援技術 I」第2章 テキスト「認知症の理解」第4章2節
21	生活環境について1・2 その人らしい生活環境を整える重要性を理解する	テキスト「生活支援技術 I」第2章 テキスト「認知症の理解」第4章2節
22	くつろぎの場 個別ケアの重要性を理解する	テキスト「生活支援技術 I」第2章 テキスト「認知症の理解」第4章2節
23	安心できる居場所・居心地 共生の魅力を理解する	テキスト「生活支援技術 I」第2章 テキスト「認知症の理解」第4章2節
24	生活障害とは1 高齢者施設の現状を理解する	テキスト「認知症の理解」第4章1節 テキスト「障害の理解」第4章
25	生活障害とは2 障害者施設の現状を理解する	テキスト「認知症の理解」第4章1節 テキスト「障害の理解」第4章
26	生活ニーズとは何か1 施設生活での生活ニーズを理解する	テキスト「人間の理解」第4章1節 テキスト「障害の理解」第4章
27	生活ニーズとは何か2 在宅生活での生活ニーズを理解する	テキスト「人間の理解」第4章1節 テキスト「障害の理解」第4章
28	個別支援の意味 高齢者・障害者のボランティア経験からの個別支援における学び 報告会1	テキスト「人間の理解」第4章1節 テキスト「障害の理解」第4章
29	個別支援の視点 高齢者・障害者のボランティア経験からの個別支援における学び 報告会2	テキスト「人間の理解」第4章1節 テキスト「障害の理解」第4章
30	まとめと最終評価	

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名：介護の基本Ⅱ				担当教員氏名：毛利 亘					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
4	1年次	後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
本科目は介護の基本Ⅰと同様、介護領域の礎となる科目である。保健医療に関する基礎知識について理解するとともに、介護福祉士にとって必要な介護福祉に関する知識、利用者主体という基本的な視点、ICFの概念で人を理解し、自立支援に繋げる観点及びリハビリテーション知識を持ち、チームケアの実践力を持つことを目標としている。						ICF リハビリテーション からだの理解 尊厳 豊かに暮らす 終末期 連携			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 3. 4. 5. 6.				
A 知識・理解力			自立に向けた介護を行うための知識を獲得することができる						
C 論理的思考力			利用者主体とはどのような実践で実現するのかを考察し、理解することができる						
F チームワーク・リーダーシップ			尊厳を支える介護を追究することができる						
G 倫理観			他職種との連携を理解することができる						
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト： 90 %		レポート： %		発表： %		実技試験： %		その他： 10 %	
特記事項：その他10%とは、授業への取り組みの姿勢の評価をいいます。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：29回に評価に関する演習を行います。最終回にはまとめを行います。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：試験に関して全体に結果を伝えます。									
使用テキスト：「介護の基本Ⅰ」中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会編集				その他参考文献など：「管理される心」世界思想社、 A. Rホックシールド					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： アクティブラーニングの元にグループワークを取り入れます。授業には積極的に取り組んでください。適宜、資料を配布しますので自己管理を行ってください。									
授 業 計 画				事前・事後の学習課題					
回数									
1	授業オリエンテーション			テキスト2章を復習・第3章第1節の学習ポイントを振り返る					
2	人を支える強さ(若年性アルツハイマー病患者の支え)			疾病の理解・テキスト178pを読む					
3	介護職が行う生活支援(食事・排泄・睡眠)			テキストp138・テキストp139～を読む					
4	介護職が行う生活支援(機械浴槽での入浴・家事支援)			テキストp143・配布資料を読む					
5	介護職が行う生活支援(口腔ケア・移動・家族支援など)			テキストp145・配布資料を読む					
6	尊厳を支えるという事を考える(機械による介護～利用者理解)			テキストp159～160・テキスト162を読む					
7	文化的な生活を支える援助			テキストp162・配布資料を読む					

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名： 介護の基本Ⅱ		担当教員 氏名： 毛利 亘
8	尊厳を支えるという事を考える(老人病院からの生還)	テキストp162・授業内容の復習
9	要介護者にとっての自立した暮らしとは(DVD学習)	テキストp162・授業内容の復習
10	穏やかな終末期を支えるケアを考える	テキストp162・配布資料を読む
11	施設入所者の理解(詩から考える)	テキストp162自立・自律した暮らしを実現するケアを読む
12	高齢者施設入所者の理解(終末期への準備～ある特養の取り組み)	テキストp163～164を読む・授業内容の復習
13	高い倫理性(口から食べるということ)つゆのあとさき	テキストp163～165を読む・授業内容の復習
14	身体拘束を考える	テキストp165事例を読む・授業内容の復習
15	老いを生きる(当事者の視点)	テキストp167を読む・授業内容を振り返る
16	感情労働としての介護	テキストp169を読む・配布資料の理解
17	QOLの考え方①認知症入所者の理解(DVD学習・しわ)	テキストp170を読む・授業内容の復習
18	QOLの考え方②認知症利用者のニーズ	テキストp170を読む・授業内容の復習
19	ノーマライゼーションを考える	テキストp171を読む・授業内容の復習
20	ICFの理解	テキストp174～176を読む・配布資料の復習
21	ICFの理解～認知症GH入所者DVD学習	テキストp174～176を読む・配布資料の復習
22	ストレングスの活用	テキストp176～177を読む・授業内容の復習
23	自立支援と介護予防(動かさないことによるリスク)	テキストp182～183を読む・授業内容の復習
24	リハビリテーションとは	テキストp186～187・授業内容の復習
25	介護実践とリハビリテーション	テキストp188～189を読む・授業内容復習
26	介護予防とリハビリテーション	テキストp188～189を読む・授業内容復習
27	能力の維持・拡大	テキストp191～を読む・配布資料の再理解
28	連携	テキストp193～を読む・配布資料の再理解
29	介護観を持つということ	自身の介護に関する考えをまとめてみる
30	まとめ	後半の授業の復習・本科目の振り返り



社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: コミュニケーション技術 I (手話含む)				担当教員 氏名: 毎熊 由紀(手話)、毛利 亘					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要: 要介護者への生活支援場面におけるコミュニケーションの意義と目的を知り、技法についての目的や効果を理解し、演習を通して活用法を学びます。特に手話では、聴覚障害の理解と手話によるコミュニケーションを学びます。また手話の概要と、自己紹介・簡単な会話ができる程度の手話技術の習得を目指します。						キーワード			
授業科目の到達目標 学習教育目標						自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号) 2. 5. 6.			
A 知識・理解力			要介護者への基本的なコミュニケーションの知識・技術を学ぶことができる						
B 専門的技術			手話の基礎的技術を習得する。介護場面におけるコミュニケーション技術を習得することができる						
C 論理的思考力			要介護者・家族に対する適切なコミュニケーションを組み立てることができる						
H コミュニケーション力			手話によるコミュニケーションおよび高齢者難聴者との接し方を身につける。演習・事例を通して要介護者へのコミュニケーションの実践力を養うことができる						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 毛利の回ではテスト70%、その他30%で評価し、毎熊の回に関してはテスト20%、レポート30%、その他50%(授業時の手話表現(発表)および授業への参加姿勢を重視)します。各教員50点の配点とし、合計点数を最終評価とします。毛利の回に関しては、アクティブラーニングの一環としてグループディスカッションの形式を用います。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 11回目と15回目に最終評価のための試験とまとめを行います。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 各教員の筆記試験の結果をフィードバックします。									
授 業 計 画						事前・事後の学習課題			
①【毛利】コミュニケーションの基本・自己覚知・環境や雑音について				4月7日	テキスト2~11pを読む				
②【毛利】自己開示について				4月14日	テキスト12~17pを読む				
③【毛利】関心を向ける・関わりを示すということ				4月21日	テキスト28~37pを読む				
④【毎熊】手話概論			手話の実技(挨拶)	4月28日	演習を振り返る				
⑤【毎熊】手話概論			手話の実技(自己紹介)	5月12日	演習を振り返る				
⑥【毎熊】手話概論			手話の実技(家族・人物の表現)	5月19日	演習を振り返る				
⑦【毎熊】聞こえのしくみと聴覚障害			手話の実技(数の表現)	5月26日	演習を振り返る				
⑧【毎熊】聞こえのしくみと聴覚障害			手話の実技(趣味に関する表現)	6月2日	演習を振り返る				
⑨【毎熊】聴覚障害者とコミュニケーション			手話の実技(時を表す表現)	6月9日	演習を振り返る				
⑩【毎熊】高齢難聴者との接し方			手話の実技(会話練習)	6月16日	演習を振り返る				
⑪【毎熊】試験及びまとめ				6月23日	演習を振り返る				
⑫【毛利】介護福祉士に求められる要介護者とのコミュニケーション・傾聴				6月30日	テキスト52~68pを読む				
⑬【毛利】納得・同意を得る方法				7月7日	テキスト72~75pを読む				
⑭【毛利】要介護者への質問の技法・相談・助言・指導の技法				7月14日	テキスト81~92pを読む				
⑮【毛利】要介護者の家族とのコミュニケーション まとめ				7月21日	テキスト93~104pを読む				
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」<第2版>中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会編集 【手話】授業時にプリントを配布					その他参考文献など: 「図とイラストで読む人間関係」福村出版、水田恵三・西道 実編著				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習には積極的に臨んでください。その取り組みの姿勢も評価します。また授業態度には十分気をつけてください。									

社会福祉学科			介護福祉 専攻		1 年	
科目名: コミュニケーション技術Ⅱ(点字含む)				担当教員 氏名: 松本保男(点字)、毛利 亘		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門選択科目	演習	選択	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
自分の意思や要求を相手に伝えることが困難になっている方に対し、障害の状態や原因を理解した上で、必要とされる技術を学ぶ。多職種協働におけるチームのコミュニケーション能力も養う。また、点字の歴史と概要および表記法、基礎技術の習得と、視覚障害者とのコミュニケーションについても学ぶ。					点字 視覚障害 コミュニケーション障害 チームのコミュニケーション	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7.		
A 知識・理解力		コミュニケーション障害の原因を理解する。				
B 専門的技術		障害の特性に合わせた技術を習得する。点字の基礎技術を習得する。				
F チームワーク・リーダーシップ		チームのコミュニケーション方法を理解し、実践できる能力を習得する。				
H コミュニケーション力		人間の心と行動を理解し、自己・他者とコミュニケーションができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: ①～⑧、⑨～⑯それぞれ50点の配点とし、合計点数を本科目の最終評価とします。 ①～⑧点字では、テスト70%、レポート20%、発表10%とする。 ⑨～⑯では、ときどきミニテスト、レポートを提出してもらいます。⑯に、まとめの試験を行います。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 8回目・16回目に試験を実施し評価する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:【松本】点字演習、課題に即して適宜助言する。 【加藤】適宜レポート提出や小テストを行い、採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【松本】点字の歴史と概要		9月27日(水曜日)	【事後】テキストにより復習する			
②【松本】点字の書き方の実際1(読み書きの基礎)		10月4日(水曜日)	【事後】演習1～3を行う			
③【松本】点字の書き方の実際2(語の書き表し方)		10月11日(水曜日)	【事後】50音などの復習			
④【松本】点字の書き方の実際3(語の書き表し方)		10月18日(水曜日)	【事後】数字・アルファベットなどの復習			
⑤【松本】点字の書き方の実際4(分かち書き)		10月25日(水曜日)	【事後】分かち書きの復習			
⑥【松本】点字の書き方の実際5(記号類)		11月1日(水曜日)	【事後】記号類の復習			
⑦【松本】点字の書き方の実際6(点字表記の応用)		11月8日(水曜日)	【事後】分かち書きなど点字表記全体の復習			
⑧【松本】まとめ 点訳の要点、補充、点字試験		11月15日(水曜日)	【事前】点字および視覚障害者についての復習			
⑨【毛利】オリエンテーション コミュニケーション障害とは		9月29日(金曜日)	【事前】教科書(コミュニケーション障害の理解、対応)を読む			
⑩【毛利】高次脳機能障害 構音障害 失語症に応じたコミュニケーション技術		10月6日(金曜日)	【事前】ワークシート予習 【事後】教科書(特性に応じたコミュニケーションの実際)で読む			
⑪【毛利】精神障害に応じたコミュニケーション技術		10月13日(金曜日)	【事前】ワークシート予習 【事後】教科書を読む			
⑫【毛利】認知症に応じたコミュニケーション技術		10月20日(金曜日)	【事前】ワークシート予習 【事後】教科書を読む			
⑬【毛利】笑顔を引き出すアプローチ		10月27日(金曜日)	【事前】⑨～⑫の復習、ワークシート予習			
⑭【毛利】チームのコミュニケーション ～記録～		11月10日(金曜日)	【事前】教科書(記録)を読む、ワークシート予習			
⑮【毛利】チームのコミュニケーション ～報告・連絡・相談、会議～		11月17日(金曜日)	【事前】教科書(報告・連絡・相談、会議)を読む。ワークシート予習			
⑯【毛利】ふり返りと評価		11月24日(金曜日)	【事前】全体の復習			
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」中央法規出版 「初めての点訳第2版」「視覚障害者介護技術シリーズ」 全国視覚障害者情報提供施設協議会発行				その他参考文献など:「改訂 失語症の人と話そう」(中央法規)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 随時ワークシートを配布するので、ファイル等に保管し持参すること。また、講義内容の理解度や進行状況を見て、講義内容を一部変更します。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻		1 年				
科目名: 生活支援技術 I -①				担当教員 氏名: 黒田寿江、梶美江子、磯崎尚子、藤本孝子、坂井亜紀					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	前期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりについて学ぶ。 身体的機能と栄養的基礎知識を理解し、食生活支援を実践するための技術を習得する。 家事全般の基礎技術を理解する。介護を必要とする人の自立を援助する実力を養う。						家庭生活 食生活 家事			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 3. 5. 6. 9. 10				
A 知識・理解力			介護を必要とする人の自立に向けた居住環境を理解する。 生活支援とは何かについて、家庭生活に関わる基本知識、家庭経営・家計の管理について理解する。 栄養学的基礎知識の習得。 家事的基礎知識と意義を学び、介護が必要な人の生活を考えることができる。 高齢者、障害者にとっての食の意義を理解する。						
B 専門的技術			介護に必要な栄養学的知識の理解。 家事全般基本的な技術を習得し、実践することができる。 個別性のある食生活の自立を支援する調理技法を習得する。						
E 自己管理能力			自己の生活力が身に付く。						
H コミュニケーション力			自己・他者を理解し、他者と共感ができ、相手の立場に立って考えることができる。						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 【黒田】[座学]レポートとテストで80%、その他(参加姿勢など)20%、 【梶】テスト100%(テスト内にレポート課題含) 【磯崎】テスト80%、その他(授業の参加姿勢など)20% 【藤本】テスト80%、その他(授業への参加姿勢など)20% 【黒田・坂井】[実習] レポート30%、その他70%(実技中心に行なう。グループ毎の仲間意識、先生とのコミュニケーションをとりながら学ぶことを重視する。レポートで実技の理解度を確認する。)									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最終コマ授業時にテスト実施。 【黒田】レポート提出 【坂井】レポート提出(25コマ目)									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 【梶】テスト解答用紙を集めた後、問題を確認させながら回答及び説明を行う 【藤本】採点后返却する 【坂井】成果物に対する評価は口頭で行う(毎回)、レポートにはコメントを記入し返却する 【磯崎】適宜小テスト・小レポートを課し、不足分を講義する									
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術 I」中央法規出版				その他参考文献など: ・「福祉住環境コーディネーター検定試験」3級~1級 ・新家庭基礎(実教出版) ・新図説家庭基礎(実教出版) ・家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍) ・生活支援の家政学(健昂社) ・介護福祉のための家政学実習(健昂社) ・イラスト 栄養学総論(東京教学社)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): <注意>各授業の実施日は、ガイダンス・掲示板で連絡。									
授 業 計 画				事前・事後の学習課題					
回数	授業日程は、担当教員により異なります。時間割欄外を参照してください								
1	【黒田】<衣> 被服の機能				【事後】自分の衣服のラベルを調べる				
2	【黒田】<衣> 被服の素材				【事後】教科書・プリントを覚える				
3	【黒田】<衣> 被服の管理				【事後】洗剤のラベルをみる				
4	【黒田】<衣> 高齢者の被服・寝具 および まとめ				【事前】教科書・プリントを覚える				
5	【梶】<住> 自立に向けた居住環境の整備と意義の理解・アセスメント				【事前】教科書(居住環境の整備の意義と目的)を読む 【事後】自宅の居住環境を見直し、問題点を洗い出す				
6	【梶】<住> 快適な居住環境とは・室内の環境・防犯・防火他を理解				【事前】教科書(安心で快適な生活の場づくり)を読む 【事後】自宅の図面作成・課題のアセスメントを行う				
7	【梶】<住> 安心で快適な生活の場作り・介護を必要とする人が自分らしく暮らす為の住まいの整備を理解				【事前】教科書(集団生活の場における工夫留意点・多職種の役割と協働)を読む 【事後】実習時に集団の場で居住環境・職種の確認				

※前ページよりつづき 社会福祉学科 介護福祉 専攻 1年

回数	授 業 計 画	事前・事後学習課題
科目名：生活支援技術 I -① 担当教員 氏名：黒田寿江、梶美江子、磯崎尚子、藤本孝子、坂井亜紀		
8	【梶】<住>介護保険での住宅改修及び施設空間での快適環境整備を考える	【事前】教科書第2章「居住環境の整備」及び授業内での配布資料、授業内説明筆記内容より出題
9	【磯崎】<生活>生活を理解する視点	【事前】テキスト「生活を理解する視点」を読む 【事後】演習を行う
10	【磯崎】<生活>生活支援の基本的な考え方	【事前】テキスト「生活支援の基本的な考え方」を読む 【事後】演習を行う
11	【磯崎】<生活>家庭生活の理解	【事前】テキスト「家庭生活の理解」を読む 【事後】演習を行う
12	【磯崎】<生活>家庭経営、家計の管理、まとめ	【事前】テキスト「家庭経営、家計の管理について」を読む 【事後】演習を行う
13	【藤本】<食>栄養素の種類とその働き①	【事後】講義13の復習
14	【藤本】<食>栄養素の種類とその働き②	【事後】講義14の復習
15	【藤本】<食>消化と吸収	【事後】講義15の復習
16	【藤本】<食>食生活と安全およびまとめとテスト	【事前】<食>13~15全体の振り返り 【事後】講義16の振り返り
17	【黒田】<演習・実習>「整理と収納」(教室)	【事後】家庭で一部屋かワンコーナーで、整理と収納を実践する
18	【黒田】<演習・実習>「ゴミの捨て方」「家計管理」(教室)	【事後】自分の地域のごみの捨て方を調べ、実際に分別してみよう／家計管理を続けてみよう
19	【黒田】<演習・実習>「洗濯」上手になるために素材を知る、汚れに応じた洗剤選び(実習室)	【事後】靴下・セーター等洗ってみよう
20	【黒田】<演習・実習>「住まいの手入れ」掃除の予定・手入れ・汚れを知る(教室)	【事後】汚れやすい箇所を調べ、対策をたてよう ／セスキ炭酸ソーダを使って掃除をしてみよう
21	【黒田】<演習・実習>「衣類の収納とアイロンかけ」ワイシャツ・ブラウスのアイロンかけ	【事後】自分の衣服にアイロンをかけてみよう／防虫剤を使ってみよう
22	【黒田】<演習・実習>「手縫いの基礎」	【事前】玉むすび・玉どめ・並縫いを習得しておく 【事後】衣服の補修や小物制作をしてみよう
23	【坂井】<演習・実習>「食事の基本」献立のたて方	【事後】1食分の献立を考え、講義26終了後に提出、講義29・30で実習します
24	【坂井】<演習・実習>「調理の基本」切り方と味付けの基本、加熱操作の分類と特徴	【事後】切り方のプリントを読む、講義25で実技確認します
25	【坂井】<演習・実習>「介護食に適した食品と調理法」消化の良い食事	【事前】調味料の計測プリントを読む
26	【坂井】<演習・実習>「介護食に適した食品と調理法」咀嚼しやすく、嚥下しやすい食事	【事後】講義27・28のレシピ中の調味料の重量を計測スプーンに換算する
27	【坂井】<演習・実習>「疾患予防と食事について」エネルギー、油脂、塩分を控える	【事前】疾患予防と食事についてのプリントを読む
28	【坂井】<演習・実習>「疾患予防と食事について」カルシウム、鉄、食物セインを多く摂る献立	【事前】食品成分のプリントを読む
29	【坂井】<演習・実習>「文化としての食」行事食、伝承料理、郷土食の調理	【事前】盛り付けのプリントを読む
30	【坂井】<演習・実習>「文化としての食」食の楽しい演出	【事前】盛り付けのプリントを読む

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 生活支援技術 I-②					担当教員 氏名: 岩上厚子、岡野宏宣、関根双葉	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施設の利用者が楽しむことができるレクリエーション活動に取り組む。</li> <li>自分自身が活動を楽しみながら活動の趣旨を理解する。</li> <li>実際に援助者になった場合を想定し、具体的な援助技術の習得を目指す。</li> <li>各課題にとりくむなかで、自己・他者の発見やつまづきを理解し、将来的にかかわる利用者の「可能性」「ニーズ」「生活のゆとり」をつくり出す、よりよい支援の在り方を学ぶ。</li> <li>単発的なレクリエーション財の習得のみを目的とするのではなく、企画、立案の方法、財の選択、アレンジの方法なども含めて体験的に学習する。</li> <li>音楽の療法的意義を学ぶ。</li> </ul>					レクリエーション活動 個別学習とグループ学習 レクリエーション活動の意義や内容の理解 アイスブレイキング ホスピタリティトレーニング	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8.	
A 知識・理解力	福祉におけるレクリエーション活動の意義や内容について理解することが出来る。					
B 専門的技術	レクリエーション活動に関する基礎的・基本的な技術を習得する。 介護の目的に合わせたレクリエーション提供能力を習得する。					
C 論理的思考力	対象者に合わせた工夫やアレンジの能力を習得する。					
D 問題解決力	自分が経験した活動に関する意義や内容、発見や表現意図などに関してまとめ、利用者とかかわる場に向けて、学びを整理して記述することができる。					
H コミュニケーション力	活動に取り組むなかで、自己・他者を理解し、コミュニケーションを育むことができる。 コミュニケーションを促進するためのレクリエーションの活用方法を習得する。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 【岡野】『レポート(50%)』は、各課題の学びを整理・記録したフォリオである。『発表(50%)』は、課題作品・提出、授業態度である。 【岩上】毎回授業終了時にレポートの提出を求めます。 【関根】レポート(50%)・発表(30%)は演習における集中度、その他(20%)は授業態度である。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 【岡野】各課題の後に学びを整理・記録したフォリオを作成して提出。その後にフォリオの記入状況、課題作品、授業態度と合わせて評価(点数化)していきます。 【岩上】レポートと取り組み度により評価します。 【関根】レポートより演習と課題の気づきを評価します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:【関根】レポートはメッセージを添え返却する。						
授 業 計 画			日付	事前・事後の学習課題		
①【関根】音楽を楽しむ			12月1日	演習における積極的姿勢		
②【関根】障害と音楽			12月8日	演習における積極的姿勢		
③【関根】音楽を活用する			12月15日	演習における積極的姿勢		
④【関根】音楽レクリエーション			12月22日	音楽を活用推進する意欲		
⑤【岩上】レクリエーションの意義			9月27日	【事前】ワークシートを配布 レクリエーションのイメージについてまとめておく 【事後】福祉レクリエーションについての考え方のレポートを提出		
⑥【岩上】ホスピタリティの示し方			10月4日	【事後】援助者の役割についてまとめる(どのような援助者を目指すのかまとめる)		
⑦【岩上】アイスブレイキングの基本技術			10月11日	【事前】レジメを熟読しておく		
⑧【岩上】アイスブレイキングのプログラミング			10月18日	【事前】レジメを熟読しておく		
⑨【岩上】介護予防とレクリエーション			10月25日	【事前】高齢者の馴染みの歌を調べる 【事後】健康体操の復習		
⑩【岩上】ふりかえりとまとめ			11月1日	【事前】各県のレクリエーション協会のHPにアクセスし、どのような事業を展開しているか調べておく 【事後】現代社会の課題を解決するようなレクリエーション行事について考えを深める。		
⑪【岡野】造形活動1.『ドリップングアート』			11月29日			
⑫【岡野】造形活動2.『身近な素材で造形表現』			12月6日			
⑬【岡野】造形活動3.『紙テープの稜線接着で作る壁面制作①』			12月13日			
⑭【岡野】造形活動4.『紙テープの稜線接着で作る壁面制作②』			12月20日			
⑮【岡野】まとめ(福祉分野における造形活動の援助・留意点)			1月10日			
使用テキスト: 【岡野】【関根】必要に応じて資料を提供します。				その他参考文献など: 【岡野】【岩上】【関根】随時紹介します。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 【岡野】毎回課題制作を行うので、欠かさず出席してください。やむを得ない理由で課題の進行が遅れた場合は、自ら時間をつくり、遅れを取り戻してください。 【岩上】支援力を身につけるためにもボランティア活動には積極的に参加しましょう。 【関根】音楽演習を積極的に学ぶ姿勢を望みます。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 生活支援技術Ⅱ-①				担当教員 氏名: 毛利 亘、窪田 直美		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
生活支援技術として必要な基礎的技術である、環境の整備や身支度、着脱の技術や移動の技術などを根拠を理解しながら習得します。						自立支援 コミュニケーション 安全・安楽 清潔
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7.	
A 知識・理解力			生活援助の基本的姿勢及び技術を理解することができる			
B 専門的技術			利用者に対する適切な生活支援技術および態度を習得することができる			
C 論理的思考力			科学的な根拠をもとに安全・安楽な技術を実践できる			
G 倫理観			利用者の尊厳を遵守した生活支援技術が展開できる			
H コミュニケーション力			自立支援や利用者主体の技術を行うためのコミュニケーション能力を養うことができる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: %		発表: %		実技試験: 50 %
その他: %						
特記事項: 授業態度や取り組みの姿勢も評価時に参考とします。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 30回目にまとめ及び事例演習を実施します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 筆記試験・実技試験共に結果を全体及び必要に応じて個人にフィードバックします。						
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」〈第3版〉中央法規 出版 介護福祉士養成講座編集委員会				その他参考文献など: 「図解介護福祉士実技試験完全マスター」誠文堂新光社		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 適宜資料を配布しますので、各自で保管に留意してください。実習室で演習を行いますので指定のユニフォームを着用してください。また、本授業は2班編成にて2名の教員及びアシスタントで展開します。2班合同で講義形式の授業を行う際もありますので、掲示板をしっかりと見るようにしてください。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
回数						
1	生活支援技術について1 オリエンテーション【毛利】			授業で配布された資料の復習をする		
2	生活支援技術について2 基本的概念【毛利】			授業で配布された資料の復習をする		
3	環境の整備1 静養・療養の環境整備とは			授業で配布された資料の復習をする		
4	環境の整備2 ベッドメイキング～ベッドの使用			演習を振り返る		
5	環境の整備3 ベッドメイキング～リネンの扱い			演習を振り返る		
6	環境の整備4 ベッドメイキング～実践			演習を振り返る		
7	環境の整備5 ベッドメイキング～完成			演習を振り返る		

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 生活支援技術Ⅱ-①

担当教員 氏名: 毛利 亘、窪田 直美

回数	授 業 計 画	事前・事後学習課題
8	環境の整備6 ベッドメイキング リネン交換	演習を振り返る
9	身支度の介護1 身支度を整えるということ	授業で配布された資料の復習をする
10	身支度の介護2 整髪・洗面	授業で配布された資料の復習をする
11	身支度の介護3 爪や皮膚の手入れ	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む
12	身支度の介護4 点眼・口腔ケア	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む
13	衣服の着脱の介護1 上下衣の着脱	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む
14	衣服の着脱の介護2 片麻痺の方への着脱	テキスト28p～96pの間で授業で行った技術の留意点を読む
15	環境整備や身支度に関するまとめ	授業で配布された資料の復習をする
16	衣服の着脱の介護3 片麻痺の方への衣類交換	授業で配布された資料の復習をする
17	衣服の着脱の介護4 臥床状態にある方への着脱	授業で配布された資料の復習をする
18	衣服の着脱の介護5 臥床状態にある方への衣類交換	授業で配布された資料の復習をする
19	衣服の着脱の介護6 着脱の介護まとめの演習	
20	移動の介護1 移動の意義と目的・ボディメカニクスを意識した移動の介護とは	事前にテキスト98～99pを読む
21	移動の介護2 体位変換・臥床状態におけるベッド上での移動	授業で配布された資料の復習をする
22	移動の介護3 起居・起立	授業で配布された資料の復習をする
23	移動の介護4 歩行介助	授業で配布された資料の復習をする
24	移動の介護5 車椅子での移動	授業で配布された資料の復習をする
25	移動の介護6 車椅子での移動	授業で配布された資料の復習をする
26	移動の介護7 車椅子への移乗	授業で配布された資料の復習をする
27	移動の介護8 車椅子への移乗	授業で配布された資料の復習をする
28	事例演習1	演習を振り返る
29	事例演習2	演習を振り返る
30	まとめと事例演習	演習を振り返る

社会福祉学科				介護福祉 専攻		1 年		※前ページよりつづき		社会福祉学科		介護福祉 専攻		1 年									
科目名: 生活支援技術Ⅱ-②						担当教員氏名: 韓 在都、 精田 紀代美、黒田 美樹						科目名: 生活支援技術Ⅱ-②						担当教員氏名: 韓 在都、 精田 紀代美、黒田 美樹					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考		回数	授 業 計 画				事前・事後学習課題										
2	1年次	後期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)		8	福祉用具を学ぶ サンシップとやま 学外授業														
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード																	
生活支援技術として必要な基礎的技術を習得する科目である。その際、口腔ケア、清潔保持、福祉用具の活用、食事、入浴、排泄、睡眠などの知識と技術を理解し習得する。						福祉用具 清潔保持 食事 排泄 睡眠終末期																	
授業科目の到達目標																							
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)			2. 5. 6. 7																	
A 知識・理解力		生活援助の基本的姿勢を理解することができる																					
B 専門的技術		利用者に対する適切な生活支援技術を習得することができる																					
G 倫理観		利用者の尊厳を遵守した生活支援技術が展開できる																					
C 論理的思考力		科学的な根拠をもとに安全・安楽な技術を実践できる																					
H コミュニケーション力		自立支援や利用者主体の技術を行うためのコミュニケーション能力を養うことができる																					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする																							
テスト: 20 %				レポート: 20 %		発表: %		実技試験: 40 %		その他: 20 %													
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本とする為、各演習の取り組み状況を評価する。その他20%とは、授業態度や授業の取り組み姿勢・事前学習課題の状況が対象となります。二班に分かれて行なう2コマ連続の授業です。																							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 15回と30回目																							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 中間評価は、レポートとして採点后に返却する。最終試験は筆記と実技の結果を本人に伝える。																							
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」第2版 中央法規出版						その他参考文献など: コミュニティケア 2016年12月号 特集2(日本看護協会出版会)																	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目は、アクティブラーニングを基本とした介護実習室での授業となります。グループに分かれての授業となります。メンバー同士協力し事前準備や片付けを行なってください。使用物品や用具などは正しく丁寧に扱う習慣をつけてください。																							
授 業 計 画								事前・事後の学習課題															
回数										回数													
1		口腔内の清潔				事前・事後学習としてテキストの該当箇所を読み、太字の語句を理解する。 <基礎的知識>				23		睡眠の支援1 部分浴(足浴)の理解											
2		口腔内の清潔				事前・事後学習としてテキストの該当箇所を読み、太字の語句を理解する。 <具体的な技術>				24		睡眠の支援2 部分浴(手浴)の理解											
3		入浴の支援1 個浴の理解				【事前】テキストを読む p.222~237 (1)入浴、清潔保持の意義と目的 (2)入浴、清潔保持の介護技術 【事後】小テスト				25		終末期の介護 部分清拭(目元・口元)・清潔保持の理解											
4		入浴の支援2 機械浴の理解								26		後期授業まとめと実技試験 事例演習—①											
5		入浴の支援3 清拭・洗髪				【事前】テキストを読む p.247~260 (1)清潔保持の介護 (2)入浴、清潔保持の道具・用具 【事後】小テスト				27		後期授業まとめと実技試験 事例演習—①											
6		入浴の支援3 清拭・洗髪								28		後期授業まとめと実技試験 事例演習—②											
7		福祉用具を学ぶ サンシップとやま 学外授業				事前・事後学習としてテキストの該当箇所を読み、太字の語句を理解する。				29		後期授業まとめと実技試験 事例演習—②											
										30		後期授業まとめと振り返り											
事前・事後学習としてテキストの該当箇所を読み、太字の語句を理解する。																							



科目名： 介護過程 I				担当教員 氏名： 毛利 亘		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
介護福祉士には専門的知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められます。本科目ではその介護過程の意義と目的、介護過程そのものの理解を深めます。					利用者理解 利用者主体 思考	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 9		
A 知識・理解力		介護過程の目的と意義を理解することができる				
C 論理的思考力		アセスメントから利用者のニーズを把握し、必要な介護実践の組み立てができる				
D 問題解決力		課題達成のための方法を模索し、解決策を見出すことができる				
F チームワーク・リーダーシップ		チームケアの概念を養うことができる				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： 30 %		
特記事項：その他の30%とは、演習の取り組みの姿勢、提出物や課題などの期限の遵守です。またテストとは演習課題をいいます。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：7回目に中間評価のための課題説明をし、後日提出を求めます。15回目に振り返りとまとめを行います。アクティブラーニングの一環として、グループによる演習を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：筆記試験及び演習シートにコメントし個人にフィードバックします。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①介護過程とは、おおまかな解釈				テキスト「介護過程」2～11pを読む		
②生活支援の考え方と介護過程の必要性				「その人」テキスト18～25pを読む		
③根拠に基づく介護過程の展開				事後に授業資料を読み返す		
④個別ケアの視点				事後に授業資料を読み返す		
⑤ICFの視点				事後に授業資料を読み返す		
⑥生活の中の自立について考える				テキスト「介護過程」27pを読む		
⑦中間評価のための課題説明				事後演習を振り返る		
⑧情報の収集・整理				「その人」テキスト58～63pを読む		
⑨情報の解釈				事後演習を振り返る		
⑩アセスメント～生活課題とは				事後演習を振り返る		
⑪課題の明確化				テキスト「介護過程」33～35p読む		
⑫事例を用いたアセスメント演習①情報の解釈				事後演習を振り返る		
⑬演習①の振り返り～情報の関連性を客観的に捉える				事後演習を振り返る		
⑭事例を用いたアセスメント演習①課題の明確化				事後演習を振り返る		
⑮演習②の振り返り～課題の明確化の際の留意点・まとめ				事後演習を振り返る		
使用テキスト：「その人を中心に考える介護計画」現代出版 新・介護福祉士養成講座9 「介護過程」<第3版>中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会				その他参考文献など：「楽しく学ぶ介護過程」介護福祉教育研究会編		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 演習には積極的に取り組んでください。取り組みの姿勢を評価します。また2週連続して行う演習もあるので欠席はしないように努めてください。						

科目名： 介護過程Ⅱ					担当教員 氏名： 毛利 亘	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門必修科目	演習	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
介護福祉士には専門的知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められます。本科目ではその介護過程の計画の立案・実施・評価の過程、及び利用者の特性に応じた介護過程の実践知識を学びます。また介護実習Ⅱ-①に向けた意識的な演習も行います。						計画立案・実施・評価 記録方法 展開の実際
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 8. 9.	
A 知識・理解力			介護過程展開のための知識を習得することができる			
B 専門的技術			目標達成に向けての援助内容を組み立てることができる			
C 論理的思考力			利用者の特性に合わせた介護過程を組み立てることができる			
D 問題解決力			利用者の課題を明確にし、適した実践ができるよう介護計画を立案することができる			
F チームワーク・リーダーシップ			自立支援に沿った介護計画立案から評価までを、多職種連携によるアプローチの必要性を理解する。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %		レポート： %		発表： %		実技試験： %
その他： 30 %						
特記事項： 最終評価のためのテストは、介護過程の事例を用いた演習を行います。その他30%とは授業への取り組みの姿勢及び、提出物の遵守をいいます。個人による演習だけではなくアクティブラーニングの一環としてグループによるディスカッションを多く取り入れます。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：中間評価として15回目に筆記試験、最終評価として30回目に演習課題に取り組みます。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：筆記試験と演習用シートにコメントしフィードバックとします。						
使用テキスト：「その人を中心に考える介護計画」現代出版 新・介護福祉士養成講座9「介護過程」<第3版>中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会					その他参考文献など：「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用 中央法規 大川 弥生著	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：演習には積極的に取り組んでください。また授業中の私語は十分注意してください。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
回数						
1	介護過程Ⅰの振り返りの演習～各過程の理解				事前に介護過程Ⅰの授業を振り返る。	
2	介護過程Ⅰの振り返りの演習～情報の理解				事後演習を振り返る	
3	情報の整理				事後演習を振り返る	
4	情報の関連付けに向けて				事後演習を振り返る	
5	気にかけての情報と関連性のある情報の把握				事後演習を振り返る	
6	情報の繋がり、対象者の気持ちの理解				「その人」テキスト49～52pを読む	
7	情報を関連付けて解釈すること				「その人」テキスト71～78pを読む	

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 介護過程Ⅱ		担当教員 氏名: 毛利 亘
回数	授 業 計 画	事前・事後学習課題
8	解釈文章の修正ポイント	事後演習を振り返る
9	解釈文章の留意点と自身の文章の傾向	事後演習を振り返る
10	生活課題の明確化に向けて	「その人」テキスト821～87pを読む 事後演習を振り返る
11	生活課題を明確化する	事後演習を振り返る
12	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習	事後演習を振り返る
13	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 情報の整理	事後演習を振り返る
14	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 課題の明確化	事後演習を振り返る
15	中間評価対象の演習	事後演習を振り返る
16	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 長期・短期目標	テキスト「介護過程」54～59pを読む
17	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 実施と評価を見すえた目標の作成	事後演習を振り返る
18	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 援助内容の組み立ての演習	事後演習を振り返る
19	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 実施と評価を見すえた援助内容の組み立て・記述の振り返りと担当と頻度	事後演習を振り返る
20	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習	事後演習を振り返る
21	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習 情報の整理	事後演習を振り返る
22	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習 課題の明確化	事後演習を振り返る
23	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習 長期・短期目標	事後演習を振り返る
24	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習 実施と評価を見すえた目標の作成	事後演習を振り返る
25	演習の振り返り	「その人」テキスト98～101pを読む
26	利用者の特性に応じた介護過程 身体障害者療護施設での生活支援	事後演習を振り返る
27	上記の演習	事後演習を振り返る
28	実習記録用紙を用いての情報の収集演習	事後演習を振り返る
29	実習記録用紙を用いての情報の整理・解釈	事後演習を振り返る
30	実習記録用紙を用いての生活課題の明確化、計画立案・まとめ	事後演習を振り返る

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名： 介護総合演習 I				担当教員 氏名： 毛利 亘		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門選択科目	演習	選択	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本科目は利用者との人間的なふれあいを通して、基本的な生活援助技術、コミュニケーション技術を学び、個別ケアの重要性の理解、介護福祉士の役割の理解といった目標を持つ実習 I - ①に関するの事前・事後指導科目です。						介護実習 I - ① 入所・通所サービス
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 3. 4. 5. 6. 7. 9	
A 知識・理解力		実習 I - ①の目的を理解することができる				
B 専門的技術		利用者主体で関わることができる				
C 論理的思考力		自身の実践を振り返り考察する能力を養うことができる				
G 倫理観		介護福祉士としての倫理を理解することができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項:その他50%は授業態度や取り組みの姿勢、実習記録ファイル等の提出を評価します。また実習終了後の報告会に関する評価も含まれます。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:実習終了後に最終評価として報告会を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:筆記試験及び演習用シートにコメントします。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①実習とは				実習要綱2pを読む		
②実習 I - ①の目的の理解				実習要綱3pを読む		
③実習施設の理解1				実習要綱実習プログラム例を読む		
④実習施設の理解2				授業で配布された資料を復習		
⑤記録1 オリエンテーションの記録				授業で配布された資料を復習		
⑥記録2 かかわりの記録				授業で配布された資料を復習		
⑦記録3 考察とは				授業で配布された資料を復習		
⑧記録3 目標とは				授業で配布された資料を復習		
⑨記録4 日々の記録				演習を振り返る		
⑩記録5 経験録や必要書類の理解				授業で配布された資料を復習		
⑪事前打ち合わせ訪問に向けて				実習施設を調べる		
⑫特別講義				自身の目標を再認識する		
⑬事前訪問報告会				実習の自己目標を再理解する		
⑭留意事項の確認				授業で配布された資料を復習		
⑮直前オリエンテーション・実習報告会に向けて				授業で配布された資料を復習		
使用テキスト: ・新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」<第3版> > 中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ・「平成29年度介護実習要綱」				その他参考文献など:「介護職のための根拠に基づいた記録の書き方」エルゼビア・ジャパン 是枝祥子・佐藤富士子・浦尾和江・嶋田美津江編著		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「平成29年度介護実習要綱」及び実習ファイル等は授業の中で配布します。自己管理に留意すること。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名： 介護総合演習Ⅱ				担当教員 氏名： 新任教員		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門選択科目	演習	選択	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
本科目は、個性性を重視した介護計画の立案・利用者の心身の状況に応じた生活支援技術の実践を目標とした介護実習Ⅱ-①の事前・事後指導科目です。					ICF 介護過程 レクリエーション 他職種連携	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 4. 5. 6. 7. 9		
A 知識・理解力	個別のニーズに応じた介護計画を組み立てることができる					
B 専門的技術	個別のニーズに応じた生活支援技術の実践力を養う					
C 論理的思考力	個別のニーズを情報の解釈において理解し、計画に反映することができる					
F チームワーク・リーダーシップ	同職種・他職種との連携のあり方を学ぶことができる					
H コミュニケーション力	利用者の特性に応じたコミュニケーションを図ることができる					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項:その他50%は授業態度や取り組みの姿勢、実習記録ファイル等の提出を評価します。また実習終了後の報告会に関する評価も含まれます。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:実習直前に事前打ち合わせ報告会、実習直後に事後報告会を巡回教員単位で実施します。また全体で実習報告会を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:筆記試験用紙及び演習シートにコメントしフィードバックとします。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①個性性を尊重した介護計画とは1～記録の考え方				実習要綱2pを読む		
②個性性を尊重した介護計画とは2～記録の書き方				演習の復習をする		
③利用者の全体像をとらえること				演習の復習をする		
④情報収集について				演習の復習をする		
⑤アセスメントについて				演習の復習をする		
⑥事前打ち合わせ訪問に向けて				実習前後の予定を確認する		
⑦介護計画の立案				演習の復習をする		
⑧特別講義				講義を受けて自己目標を認識する		
⑨事前打ち合わせ報告会				施設の概要を調べる		
⑩直前オリエンテーション				実習ファイルを確認する		
⑪報告書の書き方と実習の振り返り				報告書の作成を開始する		
⑫記録の修正				実習ファイルを振り返る		
⑬生活支援技術の振り返り				経験録を振り返る		
⑭報告書の作成				巡回教員の指導を受ける		
⑮報告会に向けて				報告の練習をする		
使用テキスト:平成29年度介護実習要綱 新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」<第3版> 中央法規出版				その他参考文献など:ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版 [単行本] 障害者福祉研究会(編集)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):実習に向けての重要な科目です。積極的に取り組んでください。						

科目名: 発達と老化の理解 I					担当教員 氏名: 吉田 良昌	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
<p>人は、生誕から死に至るまで成長、成熟して人間として個性化していく。人体の基本的な構造や機能及びその病的状態について理解し、代表的な疾患についてその概要を理解する。また、乳幼児期、児童期、青年期、老年期等人間の発達段階に特有な心理的・身体的な特徴について理解し、発達の観点より、老化に伴う身体の変化を理解して、介護福祉士としてのあり方を学ぶ。介護者の異常を発見し、すぐに報告できる能力を身につけるとともに、保健医療に関する基礎知識と医事法制の概要について理解する。</p>						発達 老化 身体的理解
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
B 専門的技術			介護者の異常を発見し、すぐに報告できる能力を身につける			
H コミュニケーション力			親切的な介護を実践できる スタッフと仲良く仕事ができる協調性を身につける			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストは期末に行なう。レポート・発表は未定						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 授業で復習します。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
<p>※人体の構造と機能、一般臨床医学の概要、現代社会の代表的な疾病の概要等について、各回のテーマに沿って学ぶ。</p> <p>①人間の成長と発達(人間の成長・発達と心理的理解)</p> <p>②発達の定義</p> <p>③発達段階と課題</p> <p>④老年期の発達と成熟</p> <p>⑤老化とは何か</p> <p>⑥老いの価値</p> <p>⑦中間のまとめ</p> <p>⑧高齢者と健康</p> <p>⑨高齢者の症状・疾患の特徴</p> <p>⑩高齢者に多い症状・訴えとその留意点</p> <p>⑪高齢者に多い病気とその留意点 1</p> <p>⑫高齢者に多い病気とその留意点 2</p> <p>⑬老年症候群と介護予防</p> <p>⑭保健医療職との連携 ※公衆衛生の動向(人口動態・疾病と受領状況・医療関係者と医療施設の現状・医療保障制度の概要)を含む</p> <p>⑮総括</p>					<p>【事前】人間の成長について考えてくる</p> <p>【事前】テキストを読んできてくる</p> <p>【事前】テキストを読んできてくる</p> <p>【事前】テキストを読んできてくる</p> <p>【事前】テキストを読んできてくる</p> <p>【事前】①～⑥の復習する</p> <p>【事前】テキストを読んできてくる</p> <p>【事前】テキストを読んできてくる</p> <p>【事前】テキストを読んできてくる</p> <p>【事前】テキストを読んできてくる</p> <p>【事前】⑧～⑭の復習する</p>	
<p>使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座 11 『発達と老化の理解』 中央法規出版</p>					その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名：発達と老化の理解Ⅱ				担当教員氏名：坂本 美奈子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
人は、生誕から死に至るまで成長、成熟して人間として個性化していく。ここでは、発達の観点より、老化に伴う身体の変化を理解して、介護福祉士としてのあり方を学ぶ。発達の観点より、老化に伴うこころの変化を理解する。心理的評価法・援助技法の概要について理解し、現場に適応できる力を養い、自己・他者の理解を深める。					心の発達段階 喪失体験 人格と尊厳 高齢者の心理
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力	発達の観点より、老化に伴うこころの変化を理解する				
E 自己管理能力	現場に適応できる力を養う				
H コミュニケーション力	自己・他者の理解を深める				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： 40 %	発表： 40 %	実技試験： %	その他： 20 %	
特記事項： その他20%は、授業の受講態度等による。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： レポートにコメントや成績をつけて返却する。					
授 業 計 画				事前・事後の学習課題	
①人間のこころの成長と発達(人間の成長・発達と心理的理解) ②ライフサイクル ③心の発達段階と課題 ④喪失体験 ⑤老年期の成熟 ⑥人格と尊厳 ⑦中間のまとめ ⑧老化が及ぼす心理的影響(老人の心理的理解) ⑨老いの価値観・受容 ⑩高齢者のこころの問題と精神障害 ⑪介護者による高齢者の心理 ⑫高齢者の知的・認知機能とその特徴 ⑬高齢者の精神的機能の変化と介護予防 ⑭高齢者の心理のまとめ(老人の心理的理解) ⑮総括				毎回の事後学習として、授業で学んだことを通して、自己肯定感と他者肯定感をバランス良く高めるにはどのようにすれば良いか練習(実践)していきましょう。	
使用テキスト： 新・介護福祉士養成講座 『11発達と老化の理解』 中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会編集				その他参考文献など： ・嫌われる勇気—自己啓発の源流「アドラー」の教え(ダイヤモンド社) ・幸せになる勇気—自己啓発の源流「アドラー」の教えⅡ(ダイヤモンド社)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：					

社会福祉学科			介護福祉 専攻		1 年	
科目名: 認知症 I				担当教員 氏名: 新任教員、宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
認知症の人の体験や本人の声から認知症を理解し、さらに、認知症ケアの歴史や認知症の医学的理解、行動・心理的理解について学ぶ。				本人本位の視点 医学的理解 行動・心理症状		
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 9		
A 知識・理解力	認知症の基礎的知識を身につけ介護にかかわる専門性を発揮する					
D 問題解決力	問題解決に必要な情報を収集・分析し、行動状況を考えることができる					
G 倫理観	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理観を身につける					
H コミュニケーション力	他者に共感でき相手の立場を理解し相手の状況を考える姿勢を身につける					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本とする為、講義中に認知症高齢者との関わり方、より良いケアを学生間で議論する。その他の30%は、授業態度、各内容のグループワーク等の参加姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第7回目と第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストやレポートの結果を本人に伝えます。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【 】オリエンテーション・認知症とは何か				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】①の復習する。		
②【 】認知症の人の介護に向けての理解				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】②の復習する。		
③【 】本人本位の視点を確かなものに				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】③の復習する。		
④【 】認知症ケアの歴史				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】④の復習する。		
⑤【 】認知症の人の体験				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑤の復習する。		
⑥【 】認知症のケアの理念と視点				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑥の復習する。		
⑦【 】認知症の人に対する介護の中間まとめ				【事後】①～⑦の復習する		
⑧【宮城】認知症とは				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑧の復習する。		
⑨【宮城】認知症の診断				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑨の復習する。		
⑩【宮城】認知症の原因疾患と治療				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑩の復習する。		
⑪【宮城】認知症の予防				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑪の復習する。		
⑫【宮城】認知症の人の行動・心理症状				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑫の復習する。		
⑬【宮城】認知症の人の心理的理解				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑬の復習する。		
⑭【宮城】認知症についての事例を通して学ぶ				【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑭の復習する。		
⑮【宮城】認知症についての総括				【事後】⑧～⑮の復習する		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座12「認知症の理解」中央法規				その他参考文献など: 介護福祉士用語辞典		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目は「介護福祉士としての専門性」として期待される分野である。しっかりマスターしてください。						



社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名： 障害の理解 I				担当教員 氏名： 宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
障害の概念、障害者福祉の理念から障害について基礎的に理解し、障害のある人の生活を捉える。						障害の概念 障害と生活
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力			障害福祉の理念を理解し障害のある人について知識・技術を身につける			
B 専門的技術			障害のある人の社会参加や活動を理解し介護の専門性を高める			
F チームワーク・リーダーシップ			他職種の役割を理解し障害のある人の状況を考えることができる			
D 問題解決力			尊厳を支えるケアの視点に立ち社会福祉に生きる私になる			
H コミュニケーション力			他者に共感し相手の立場に立って考えるコミュニケーションができる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: 20 %		発表: 20 %		実技試験: %      その他: 20 %
特記事項: その他の10%は、授業態度、参加姿勢を評価します。 本科目は、アクティブラーニングを基本とするため、講義中に障害者との関わり方、より良いケアについて、学生間で学び合い、論議し、レポート作成や発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第15回目に全体の振り返りを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション・障害の基礎的理解				【事前】テキストを読んでくる。【事後】①の復習する。		
②障害の概念				【事前】テキストを読んでくる。【事後】②の復習する。		
③障害者福祉の基本理念				【事前】テキストを読んでくる。【事後】③の復習する。		
④視覚障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】④の復習する。		
⑤聴覚・言語障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑤の復習する。		
⑥重複障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑥の復習する。		
⑦肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活				【事後】①～⑦の復習する		
⑧内部障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑧の復習する。		
⑨知的障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑨の復習する。		
⑩精神障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑩の復習する。		
⑪高次脳機能障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑪の復習する。		
⑫発達障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑫の復習する。		
⑬重症心身障害のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑬の復習する。		
⑭難病のある人の生活				【事前】テキストを読んでくる。【事後】⑭の復習する。		
⑮障害のある人の生活の理解まとめ				【事後】⑧～⑮の復習する		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座13『障害の理解』中央法規				その他参考文献など: 介護福祉用語辞典		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 障害のある人について理解を深めよう。						

科目名: こころとからだのしくみⅡ				担当教員 氏名: 吉田 良昌	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
「こころとからだのしくみⅡ」は、介護サービスを提供する際の身体的な根拠を理解していくための授業となる。多様な介護サービスに専門的に応えていくためには、エビデンスに裏付けられたサービスが必要であり、からだのしくみの基礎から学ぶ。人体の基本的な構造や機能及びその病的状態について理解し、代表的な疾患についてその概要を理解する。ここでは、人間としての生命維持のしくみや生理的な欲求を理解する。また、介護者の異常を発見し、すぐに報告できる能力を身につけるとともに、保健医療対策と医事法制的概要について理解する。					からだのしくみの理解 ホメオスタシス 関節の可動域 ボディメカニクス
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
B 専門的技術	介護者の異常を発見し、すぐに報告できる能力を身につける。 親切的な介護を実践できる				
H コミュニケーション力					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 30 %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項:					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストは期末に行なう。レポート・発表は未定。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 授業で復習します。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①からだのしくみを学ぶ意義 ②人体の構造の概要を理解する ③神経系・心血管系を理解する ④呼吸器系の理解 ⑤消化系・代謝系の理解 ⑥尿路・性器系の理解 ⑦中間のまとめ ⑧皮膚及び関連部位に理解 ⑨筋骨系の理解 ⑩筋骨系の理解 ⑪ボディメカニクス・関節可動域の理解 ⑫バイタルサイン・恒常性(ホメオスタシス)の理解 ⑬老年期の疾患 ⑭生活習慣病 ⑮総括			※人体の構造と機能、一般臨床医学の概要、現代社会の代表的な疾病の概要等について、各回のテーマに沿って学ぶ。 また、③～⑭においては、下記を扱う 1) がん、生活習慣病 2) 各種感染症 3) 神経疾患 4) 精神疾患 5) 先天性疾患 6) 難病 7) その他		
			【事前】テキスト予習 【事後】①復習 【事前】テキスト予習 【事後】②復習 【事前】テキスト予習 【事後】③復習 【事前】テキスト予習 【事後】④復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑤復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑥復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑦復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑧復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑨復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑩復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑪復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑫復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑬復習 【事前】テキスト予習 【事後】⑭復習		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座14「こころとからだのしくみ」 中央法規出版				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名：こころとからだのしくみⅢ				担当教員 氏名：宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
「こころとからだのしくみ」についてICFの視点に基づき、利用者の身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持などの生活場面における根拠に基づいた生活支援ができる。これらの学習は、実践現場で他職種との協働の際に、より深く学んでいくための基礎となる重要な科目である。				心と体のしくみ 心身機能 根拠 ICFの視点		
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10.		
A 知識・理解力	人体の構造や機能を学び安全な生活支援ができる知識や技術を習得する。 保健医療に関する基礎知識について理解する。					
B 専門的技術	根拠に基づいた生活支援の実践を通して介護に関わる専門性を発揮する。					
D 問題解決力	ICFの視点から情報を収集・分析して、利用者のニーズに応じた生活支援ができる。					
H コミュニケーション力	心身のケアを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につける。					
F チームワーク・リーダーシップ	生活場面における心と体の変化や気づきから、医療職との連携が図れる。					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %	レポート： 20 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項：その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。 本科目は、アクティブラーニングを基本として、講義中により良いケアについて、学生間で学び合い、論議し、レポート作成や発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第8回目にレポート提出を課す。第15回目に全体的な総括と理解度を確認をする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①「こころとからだのしくみ」についてオリエンテーション				【事前】心と体の関連性を考えてくる 【事後学習する】		
②身じたくに関連したしくみ(身じたくのしくみ)				【事前】身じたくのテキストを読む 【事後学習する】		
③心身機能の低下が身じたくに及ぼす影響を理解する				【事前学習する】 【事後】身じたく支援の根拠を考える		
④身じたくについて変化の気づきと対応				【事前学習する】 【事後】身じたくについて復習する		
⑤移動に関連したしくみ(移動のしくみ)				【事前学習する】 【事後】移動のテキストを読む		
⑥心身機能の低下が移動に及ぼす影響を理解する				【事前学習する】 【事後】移動支援の根拠を考える		
⑦移動について変化の気づきと対応				【事前学習する】 【事後】移動について復習する		
⑧ICFの視点で事例を通して学ぶ				【事後】①～⑦の復習をする		
⑨食事に関連したしくみ(食事のしくみ)				【事前】食事のテキストを読む 【事後学習する】		
⑩心身機能の低下が食事に及ぼす影響を理解する				【事前学習する】 【事後】食事支援の根拠を考える		
⑪食事について変化の気づきと対応				【事前学習する】 【事後】食事について復習する		
⑫入浴・清潔保持に関連したしくみ(入浴・清潔保持のしくみ)				【事前学習する】 【事後】入浴・清潔のテキストを読む		
⑬心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を理解する				【事前学習する】 【事後】入浴・清潔支援の根拠を考える		
⑭入浴・清潔保持について変化の気づきと対応				【事前学習する】 【事後】入浴・清潔について復習する		
⑮「こころとからだのしくみ」を学び根拠に基づいた生活支援についてのまとめ ※社会福祉と医学(疾病と生活問題・医学的リハビリテーション)を含む				【事後】⑧～⑭の復習をする		
使用テキスト： 新・介護福祉士養成講座14『こころとからだのしくみ』中央法規				その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介をする。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 配布資料は、ファイル等で各自保管してください。 この科目は、生活支援技術の根拠となる分野である。しっかりとマスターしてください。						

社会福祉学科			介護福祉 専攻		1 年	
科目名: こころとからだのしくみⅣ				担当教員 氏名: 宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
「こころとからだのしくみ」について、ICFの視点から利用者の排泄・睡眠などの生活場面における根拠に基づいた生活支援ができる。最終障では「人間の尊厳にかかわる終末期の身体・心理的ケアの支援ができる」ことに目標を設定する。保健医療および保健医療対策と医事法制の概要に関する基礎知識について理解する。				根拠 ICFの視点 尊厳 ターミナル 看取り グリーフケア		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (短縮マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10		
A 知識・理解力	人体の構造や機能を学び安全な生活支援ができる知識や技術を習得する。保健医療および保健医療対策と医事法制の概要に関する基礎知識について理解する。					
B 専門的技術	根拠に基づいた生活支援の実践を通して介護に関わる専門性を発揮する。					
D 問題解決力	ICFの視点から情報を収集・分析して、利用者のニーズに応じた生活支援ができる。					
H コミュニケーション力	心身のケアを通して、本人や家族に共感でき、相手の死生観に基づいたコミュニケーション力を身につける。					
F チームワーク・リーダーシップ	刻々と変化する身体のアセスメントを行い、医療職との連携のもとで、平和な看取りを支援する。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 20 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。 本科目は、アクティブラーニングを基本とするため、講義中により良いケアについて、学生間で学び合い、論議し、レポート作成や発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第9回目に「根拠に基づいた生活支援」のまとめをする。第15回目に「終末期の介護」のまとめをする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
授 業 計 画			事前・事後の学習課題			
①入浴・清潔保持に関連したしくみ(入浴・清潔保持のしくみ)			【事前学習する】 【事後】入浴・清潔のテキストを読む 【事前学習する】			
②心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響			【事後】入浴・清潔支援の根拠を考える 【事前学習する】			
③入浴・清潔保持の変化の気づきと対応			【事後】入浴・清潔について復習する 【事前学習する】			
④排泄に関連したしくみ(排泄のしくみ)			【事後】排泄のテキストを読む 【事前学習する】			
⑤心身の機能低下が排泄に及ぼす影響			【事後】排泄支援の根拠を考える 【事前学習する】			
⑥排泄の変化の気づきと対応			【事後】排泄について復習する 【事前学習する】			
⑦睡眠に関連したしくみ(睡眠のしくみ)			【事後】睡眠のテキストを読む 【事前学習する】			
⑧心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響			【事後】睡眠支援の根拠を考える 【事前学習する】			
⑨睡眠の変化の気づきと対応			【事後】睡眠について復習する 【事前学習する】			
⑩「こころとからだのしくみ」の観点から、生活支援技術の根拠をまとめる			【事後】①～⑨の復習をする			
⑪「死」を理解する			【事前学習する】 【事後】死生観について考えてくる 【事前学習する】			
⑫終末期から「死」までの変化と特徴 ※医療技術の発展と生命倫理・価値を含む			【事後】終末期について復習する 【事前学習する】			
⑬「死」対するこころの理解			【事後】ターミナルケアについて復習する 【事前学習する】			
⑭医療職との連携のポイント			【事後】医療職との連携を復習する 【事前学習する】			
⑮「こころとからだのしくみ」の総括			【事後】⑩～⑭の復習をする			
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座14『こころとからだのしくみ』中央法規			その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介をする。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目は、生活支援技術の根拠となる分野である。しっかりとマスターしてください。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名：医療的ケア基礎					担当教員 氏名：宮城 和美、小出 えり子、 境 美代子、村田 美代子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門必修科目	講義	選択	介護福祉士(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
①介護職員等による医療的ケアの実施に関する制度の概要についての知識を身につける。②医療的ケアの基礎:全体の構造、医療行為実施の意識。感染予防、安全管理対策等についての基礎的知識を身につける。					医療的ケア たんの吸引 経管栄養 安全・安楽 看護職員との連携・協力 感染対策	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力		介護職員等による医療的ケアの実施に関する制度の概要についての知識を身につける。				
B 専門的技術		医療的ケアの基礎:全体の構造、医療的行為実施を意識できる。				
C 論理的思考力		感染予防、安全管理対策等についての基礎的知識を身につける。				
F チームワーク・リーダーシップ		看護職員との連携・協力・報告の重要性を理解する。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: 30 %		発表: %	実技試験: 20 %	その他: 20 %
特記事項: 「その他」の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。本科目は、アクティブラーニングを基本とするため、講義中に、より良いケアについて、学生間で学び合い、論議し、レポート作成や発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:第9回目に中間のまとめをする。 第15回目にまとめをする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【小出】ガイダンス				【事前】テキストを読む		
②【小出】医療的ケアとは				【事前】医療的ケアとはテキストを読む 【事後】②復習		
③【小出】医療制度とチーム医療:医療行為に関する法律、チーム医療と介護職との連携				【事前】医療制度などテキストを読む 【事後】③復習		
④【小出】安全な療養生活とは				【事前】安全な療養生活テキストを読む 【事後】④復習		
⑤【小出】安全な療養生活を送るために:たんの吸引や経管栄養の安全な実施				【事前】安全な実施テキストを読む 【事後】⑤復習		
⑥【村田】救急蘇生法とは				【事前】救急蘇生法とはテキストを読む 【事後】⑥復習		
⑦【村田】救急蘇生法とは【U-ホールで演習】				【事前】救急蘇生法テキストを読む 【事後】⑦復習		
⑧【境】清潔保持と感染予防とは				【事前】清潔保持テキストを読む 【事後】⑧復習		
⑨【境】清潔保持と感染予防とは				【事前】感染予防テキストを読む 【事後】⑨復習		
⑩【宮城】健康状態の把握(バイタルサイン)				【事前】バイタルサインテキストを読む 【事後】⑩復習		
⑪【宮城】健康状態の把握(バイタルサインの実践)				【事前】バイタルサインテキストを読む 【事後】⑪復習		
⑫【宮城】急変状態について				【事前】急変状態とはテキストを読む 【事後】⑫復習		
⑬【宮城】呼吸のしくみとはたらき(いつもと違う呼吸状態とは)				【事前】呼吸についてテキストを読む 【事後】⑬復習		
⑭【宮城】消化器系のしくみとはたらき、消化・吸収とよくある消化器の症状				【事前】テキストを読む 【事後】復習		
⑮【宮城】医療的ケア基礎のまとめ				【事後】⑩～⑮の復習をする		
使用テキスト: 新・介護福祉士養成講座15「医療的ケア」中央法規出版 写真でわかる介護職のための医療的ケア インターメディカ				その他参考文献など: イラストでわかる たんの吸引・経管栄養ハンドブック 単行本		
受講上の留意点(授業担当者からのメッセージ)欄:						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 介護実習 I - ①				担当教員 氏名: 毛利 亘					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	前期	専門選択科目	実習	選択	介護福祉士(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
利用者との人間的なふれあいを通じて、基本的な生活支援技術、コミュニケーション技術を学び、個別ケアの重要性を理解する。また他職種協働の実践を通して、チームケアの一員として介護福祉士の役割を理解する。						介護ニーズ 個別ケア 基本的な生活支援 コミュニケーション			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 4. 5. 6. 7				
A 知識・理解力			利用者の生活や介護ニーズを理解することができる						
B 専門的技術			基本的な生活支援技術を経験することができる						
F チームワーク・リーダーシップ			介護職員の役割を理解することができる チームケアを知ることができる						
G 倫理観			利用者の尊厳を守ることができる						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 実習施設評価、巡回教員による評価及び学内評価にて採点します。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 施設評価を個人面談形式で伝達します。									
授 業 計 画					事前・事後の学習課題				
①	.....					.....			
②	.....					.....			
③	.....					.....			
④	.....					.....			
⑤	.....					.....			
⑥	.....					.....			
⑦	詳細については「平成29年度実習要綱」に記載					.....			
⑧	.....					.....			
⑨	.....					.....			
⑩	.....					.....			
⑪	.....					.....			
⑫	.....					.....			
⑬	.....					.....			
⑭	.....					.....			
⑮	.....					.....			
使用テキスト: 「平成29年度実習要綱」					その他参考文献など: 「介護職のための根拠に基づいた記録の書き方」エルゼビア・ジャパン 是枝祥子・佐藤富士子・浦尾和江・嶋田美津江編著				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は利用者の生活の場で行われるものなので、十分にそのことを認識して真摯に臨んで下さい。									



社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：福祉の人間学				担当教員 氏名：竹ノ山圭二郎、 社会福祉学科教員	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	総合必修科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
「人間性に対する深い洞察を養い、福祉の意味をたずね、それによって人間への愛情と社会を見る目が育てられる。」(阿部志郎) これがこの授業の目的です。互いに支え合い共感し合う人間理解を深めたいものです。自己を見つめ、人間を理解し、各自がそれぞれの「人間観」を確立するのを援助する。					・人間理解 ・人権(擁護) ・倫理綱領 ・「福祉は人なり」
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 4. 5. 6. 10	
A 知識・理解力	人間性の理解を深める、福祉と人権獲得に貢献した先輩の努力を知る、				
B 専門的技術	差別された人びとのニーズを受けとめ共感・援助できる				
C 論理的思考力	人間のニーズを総合的に理解し、論理的に説明できる。福祉の意義を自分の言葉で説明できる				
G 倫理観	福祉専門職の倫理綱領を理解し、確信を持って人権を擁護するために倫理的に行動できる。				
H コミュニケーション力	感じたことや考察したことを自分の言葉で分かりやすく表現・記述できる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： 90 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：毎回、意見、感想を書いてもらいます。レポート試験を実施します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：評価をつけて返却します。					
授 業 計 画				【講師】日付	事前・事後の学習課題
① オリエンテーション(全担当教員)				【全員】4/4	※毎回、人物を事前に調べたり復習を行うこと
② 社会変革を目指したジェーン・アダムス				【松尾】4/11	
③ 「自由に結婚できるようになった背景を学ぶ」 ベアテ・ゴードン				【松尾】4/18	
④ 「人間の成長力を信じぬく」 カール・ロジャース				【竹ノ山】5/2	
⑤ 「戦国大名にみられる福祉政策」～福祉ヒストリア～				【鷹西】5/9	
⑥ 「互酬性の考え方」～映画：海難1890から学ぶ～				【鷹西】5/16	
⑦ 「コレラの流行を止めた新たな考え方」ジョン・スノウ				【成瀬】5/23	
⑧ 「児童福祉の父」石井十次				【韓】5/30	
⑨ 「障害者自立支援の運動の立役者」エド・ロバーツ				【韓】6/6	
⑩ 「ケアの本質」ミルトン・メイヤロフの言葉から考える				【毛利】6/13	
⑪ 認知症利用者の可能性を広げる「ケアニン」				【毛利】6/20	
⑫ 「ゾーマライゼーションの父」バンク・ミケルセン				【宮嶋】6/27	
⑬ 「ケースワークの母」メリー・リッチモンド				【宮嶋】7/4	
⑭ 「5つの顔をもつ」ナイチンゲール				【宮城】7/11	
⑮ 「福祉の心」マザーテレサ				【宮城】7/18	
上記の順番や内容は都合により変更することがある。					
使用テキスト：				その他参考文献など： 授業中に随時紹介します。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：「福祉は人なり」との言葉の意味を噛みしめてください。福祉に「命」を吹き込むのはあなたです。共感と思いやりをもって、人を理解し援助できるようになることを期待します。					



社会福祉学科

介護福祉

1年

科目名: 地域づくりかえ学				担当教員 氏名: 川目 俊哉、北澤 晃、宮嶋 潔、他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	総合必修科目	講義	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
主体的に地域の課題を学び、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。					教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、「私」宣言、地域社会に生きる「私」、実践躬行	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10.		
D 問題解決力		問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。				
E 自己管理能力		地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。				
G 倫理観		自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。				
F チームワーク・リーダーシップ		【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる				
C 論理的思考力		【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	33 %	発表:	%	実技試験: %
				その他: 67 %		
特記事項: 「つくりかえレポート」と年間の「週フォリオ」を含めた様々な問題への取り組み状況によって評価する。各AD教員が、AD学生の評価にあたる。「つくりかえレポート」100点満点+「週フォリオ」100点満点評価+「自分づくりをすすめる意欲・態度」100点満点評価の合計を3で割った平均を評価点とする。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、前期中にボランティア活動を各学生1回以上行い、後期の「親学」にて活動発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:「つくりかえ問題解決技法レポート」は第7回に課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:レポートはコメントと評価をつけて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【学科】建学の精神、5S活動、きときとコミュニティ・サポーターとしての社会貢献				4月4日		
②【川目・北澤】地域で活躍できる育成人材像とそのための独自の教育方法				4月11日		
③【宮嶋】ボランティア活動で自分発見				4月18日		
④【特別講義】地域福祉について学ぶ				6月27日		
⑤【特別講義】認知症サポーター養成研修				7月4日		
⑥【特別講義:訪問看護ステーション】在宅ケアにおける地域課題				7月11日		
⑦【特別講義】子育て支援について学ぶ				7月18日		
⑧【学科】卒業生の「つくり、つくりかえ、つくる」に学ぶ 各学科・専攻にて実施 - 日程・詳細は後日揭示 -				7月		
⑨【学科】アカデミック・スキルズ 大学での学び方 各学科・専攻にて実施 - 日程・詳細は後日揭示 -				5月		
使用テキスト:『未来をひらく自己物語Ⅱ ナラティブ・トレーニングのすすめ』せせらぎ出版/『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会				その他参考文献など: 「笑顔の大家族このゆびと一まれ―「富山型」デイサービスの日々」惣万佳代子 水書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・本学で大切にしている学びの基礎とあり方を追求する。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 親学				担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎、毛利 亘、 村田 美代子、若瀬 淳子、岡野 宏宣、 藤井 徳子、宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	総合科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
主体的に問題を持ち、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。						教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、『私』宣言、問題解決、社会規範・ルール、義務と責任
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10	
D 問題解決力		問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。				
E 自己管理能力		地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。				
G 倫理観		自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。				
F チームワーク・リーダーシップ		【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる				
C 論理的思考力		【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %		レポート: 33 %		発表: %		実技試験: %
その他: 67 %						
特記事項: 「つくりかえレポート」と年間の「週フォリオ」を含めた様々な問題への取り組み状況によって評価する。 各AD教員が、AD学生の評価にあたる。「つくりかえレポート」100点満点評価+「週フォリオ」100点満点評価+「自分づくりをすすめる意欲・態度」100点満点評価の合計を3で割った平均を評価点とする。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、前期中に行った各学生のボランティア活動の発表を第8回目に行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:「つくりかえ問題解決技法レポート」は第6回に課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①【竹ノ山】親学とは					11月14日	
②【村田】親について					11月28日	
③【毛利】親学の実践:親自身が成長するために					12月5日	
④【学科・キャリア開発支援課】これからの「私」の展望(進路ガイダンス)					12月12日	
⑤【若瀬】親学の実践:子どもの人間性をはぐむために					12月19日	
⑥【藤井】胎児期・乳児期・幼児期					1月9日	
⑦【岡野】児童期・思春期					1月16日	
⑧【宮嶋】ボランティア活動を通しての「私」の育ち(ボランティア活動発表)					1月23日	
使用テキスト: 「親学」の教科書 一親が育つ 子どもが育つー(PHP研究所) 「親学」学習ワークブック(浦山学園出版部)						
					その他参考文献など: 必要な時は、授業時に配布する	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・本学で大切にしている学びの基礎とあり方を追求する。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。						

社会福祉学科

介護福祉

1年

科目名：富山コミュニティー論				担当教員氏名：宮嶋 潔、中野 慎夫、毛利 恒、宮城 和美、他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	総合必修科目	演習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
主体的に地域の課題を学び、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。					教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、「私」宣言、地域社会に生きる「私」、実践躬行	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10.		
D 問題解決力	問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。					
E 自己管理能力	地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。					
G 倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる					
C 論理的思考力	【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 60 %	発表: %	実技試験: %	その他: 40 %		
特記事項: その他については、授業への積極的な取り組みとグループへの貢献度によって評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:最後の学習成果報告会において教員全体で評価し、各グループにフィードバックを行う。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【各学科】学修の進め方、地域社会に生きる「私」をつくる				演習科目であり、各ADグループごとの取り組みのため統一した事前・事後学習には適合しない。		
②【各学科】地域調査の基本について学ぶ						
③【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成						
④【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成						
⑤【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成						
⑥【AD】連携機関との打ち合わせ						
⑦【AD】調査計画の修正						
⑧【AD】地域課題の現地調査						
⑨【AD】地域課題の調査結果のまとめ						
⑩【AD】地域課題の解決策の検討						
⑪【AD】地域課題の解決策の検討						
⑫【AD】学習成果のまとめ						
⑬【AD】学習成果のまとめ						
⑭【AD】学習成果のまとめ						
⑮【全学科】学習成果報告会						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「地域つくりかえ学」で学んだことに基づいて地域課題に主体的に取り組む。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。						

社会福祉学科				介護福祉 専攻		1 年
科目名: 生涯スポーツ実技					担当教員 氏名: 福島 洋樹	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	総合選択科目	実技	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
1.運動技能の習得により、スポーツ独自の魅力・醍醐味を経験する 2.体力と技能の向上により、運動有能感(「やればできる」)を感じる 3.競争し、能力を遺憾なく発揮することで運動への「動機づけ」を見出す 4.スポーツによるライフスキル習得により、心身ともに健康な人材を育成する						
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			スポーツを基礎とした健康と福祉の関係性について理解できる。			
B 専門的技術			QOLの向上、心身の健康維持・増進の手段として福祉現場に応用できる。			
C 論理的思考力			知識で「わかる」ことを身体で「できる」ように表現してゲームに「活かす」ことで、論理的思考と問題解決力を身につけることができる。			
E 自己管理能力			意見を聴く、意見の違いを理解する、自分と周囲の関係性を理解する、ルールやチームの約束を守る力を身につけることができる。			
H コミュニケーション力			目標(勝利)に向かって「仲間、時間、空間」を共有にすることで、対人スキルを身につけることができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %		レポート: 20 %		発表: %		実技試験: 20 %  その他: 60 %
特記事項: 【レポート】健康行動に関するテーマ 【実技試験】ランキングにより数値化 【その他】活動量を万歩計を用いて数値化						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 【レポート】第8回 【実技試験】第14回と第15回の平均ランキング 【その他】活動量は毎時間申告						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: ランキングは毎回提示する。レポートは採点后、返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス				【事前】生涯スポーツの定義と特色、その背景を理解する。 【事後】生涯スポーツの定義と特色、その背景をまとめる。		
②ドライブ、ヘアピン、クリアー				【事前】生涯スポーツ政策の変遷と特徴を理解する。 【事後】生涯スポーツ政策の変遷と特徴をまとめる。		
③ドライブ、ヘアピン、クリアー、ドロップ				【事前】日本のレジャー・レクリエーション政策を理解する。 【事後】日本のレジャー・レクリエーション政策をまとめる。		
④ドライブ、ヘアピン、クリアー、ドロップ、スマッシュ、サーブ				【事前】生涯スポーツのビジネス化について現状を理解する。 【事後】生涯スポーツのビジネス化について現状をまとめる。		
⑤シングルのルール説明、半面シングル				【事前】健康づくりのために生涯スポーツが求められる役割を理解する。 【事後】健康づくりのために生涯スポーツが求められる役割をまとめる。		
⑥シングルス/ ランキング決定戦				【事前】スポーツツーリズムによる地域活性化について理解する。 【事後】スポーツツーリズムによる地域活性化についてまとめる。		
⑦シングルス/ ランキング決定戦				【事前】スポーツボランティアの果たす役割と現状について理解する。 【事後】スポーツボランティアの果たす役割と現状についてまとめる。		
⑧シングルス/ ランキング決定戦				【事前】青少年のスポーツ参加の動向について理解する。 【事後】青少年のスポーツ参加の動向についてまとめる。		
⑨ダブルスのルール説明				【事前】少子・高齢社会におけるスポーツの役割を理解する。 【事後】少子・高齢社会におけるスポーツの役割をまとめる。		
⑩ダブルス/リーグ戦				【事前】リハビリテーションスポーツの意義を理解する。 【事後】リハビリテーションスポーツの意義をまとめる。		
⑪ダブルス/リーグ戦				【事前】ニュースポーツの特性と歴史について理解する。 【事後】ニュースポーツの特性と歴史についてまとめる。		
⑫団体戦				【事前】スポーツクラブの現状と課題を理解する。 【事後】スポーツクラブの現状と課題をまとめる。		
⑬団体戦				【事前】スポーツクラブのクラブマネージャーの役割を理解する。 【事後】スポーツクラブのクラブマネージャーの役割をまとめる。		
⑭シングルス/ランク別リーグ戦				【事前】女性スポーツの促進や指導上の課題を理解する。 【事後】女性スポーツの促進や指導上の課題をまとめる。		
⑮シングルス/ランク別リーグ戦				【事前】生涯スポーツ振興に果たす自らの役割について考察する。 【事後】生涯スポーツ振興に果たす自らの役割についてまとめる。		
使用テキスト:				その他参考文献など: 生涯スポーツ実践論—生涯スポーツを学ぶ人たちに 川西正志(著)、野川春夫(著)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 内履き、スポーツ・ウェアの着用、時間厳守 授業中における「携帯電話の使用」、「途中入室」、「途中退室」は認めない						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 臨床美術				担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	総合選択科目	演習	選択	臨床美術士5級
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
右脳の活性化と認知症予防の関係を知り、他者との関係を深めるコミュニケーション空間をつくり出し、美術療法の技術を用いて生き生きとした活動を設定する力を身に付ける。また、主体的にロールプレイングなどアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などで活動する実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション ・量感画	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8.	
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。			
B 専門的技術			状況や関係を把握して量感画などで表す基本的技術を習得する。			
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。			
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 %
その他: 10 %						
特記事項: 事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内の発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として福祉施設などを想定して学生同士におけるロールプレイングを行います。 準備物: 毎回の授業に持参してください。ハサミ、スティック糊、割り箸ペン、新聞紙(朝刊1日分)、ウェットティッシュ、クロッキー帳鉛筆2Bか4B						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。						
使用テキスト:『臨床美術士養成講座5級』, 芸術造形研究所 『臨床美術-痴呆治療としてのアートセラピー』, 芸術造形研究所				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・本科目は一日に2コマや3コマ続けて行う科目になります。また開講日時も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ・オイルパステルの特性を知り、自分自身が楽しめるようになるために、継続的に描き続けてみる必要があります。						
授 業 計 画					準備物/事前・事後の学習課題	
回数						
	【岡野】授業ガイダンス			10月2日		
1	【北澤】臨床美術基幹 I -①			10月16日		事前課題: 自己紹介文(ガイダンスで配布)
2	【北澤】臨床美術基幹 I -②			10月16日		
3	【岡野】臨床美術入門 I「五感のアナログ画」			10月23日		
4	【岡野】臨床美術入門 I「りんごの量感画」			10月23日		
5	【北澤】臨床美術入門 I「立体かぼちゃ」①			10月30日		
6	【北澤】臨床美術入門 I「立体かぼちゃ」②			10月30日		準備物: 作品を持ち帰るための袋

※前ページよりつづき

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 臨床美術		担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣	
7	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの模刻」	11月6日	事前課題:りんごの量感画 準備物:りんご1個、雑巾
8	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの量感画」	11月6日	
9	【北澤】存在論的人間観	12月4日	
10	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「私の感性地図」「鑑賞会」	12月4日	事前課題 ・私の感性地図・りんご以外の量感画
11	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ 「アナログ画①」	12月11日	事前課題:アナログ日記① 準備物:鉛筆(2Bか4B) 事前課題:書籍『臨床美術』の感想文
12	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ 「アナログ画②」	12月11日	
13	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「現場セッションについて」	12月18日	
14	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けて試作」	1月15日	準備物:さつま芋(紫芋以外で) 和紙セット(試作で使用) 事前課題 ・修正輪郭画 ・ゴッホの素描 ・りんごを描く4種
15	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けてリハーサル」	1月15日	
16	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング①」	1月22日	準備物:さつま芋1個+α
17	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング②」	1月22日	
18	【岡野】臨床美術実践の基礎 「総括」	1月29日	事前課題:アナログ日記② 準備物:臨床美術協会資格認定申請書 (課題をすべて提出している方)
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

## 社会福祉学科

## 介護福祉 専攻

1 年

科目名: 日本語表現技法				担当教員 氏名: 山本 裕世		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	通年	総合選択科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
日本語を表現することは、自己表現することである。したがって、文章や会話を通して、自己の在りようが現れることから、適切に伝えるための日本語表現の基礎基本を学ぶとともに、他者との関係を豊かにする自己表現の態度を養う。						国語力の基礎 話す力 聴く力 書く力 プレゼンテーション
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8.	
A 知識・理解力			日本語の正しい使い方を身につける。			
C 論理的思考力			言葉を客観的に理解し、正しく判断する。			
D 問題解決力			情報を的確に収集し、集めた情報を正しく分析する。			
H コミュニケーション力			言葉やジェスチャーを用いて、お互いの意志の伝達を図る。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: 10 %		実技試験: % その他: 10 %
特記事項: 上記「その他10%」では、授業態度、授業への積極性を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート、小テストを適宜取り入れる。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 各レポート、課題をアドバイス、採点結果を記入の上返却。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①アカデミックワードと日常語・現代表記				5月2日	【事前】配布プリントを予習	
②誤りやすい用字用語・当て字に注意する・記号の使い方				5月9日	【事後】①②の復習プリントに取り組む	
③あいまいな文・分かりやすい語順				5月16日	【事前】配布プリントを予習	
④敬語				5月23日	【事後】③④の復習プリントに取り組む	
⑤手紙・Eメール				5月30日	【事前】配布プリントを予習	
⑥短文で書く・文末に注意する				6月6日	【事後】⑤⑥の復習プリントに取り組む	
⑦接続表現の使い方・文のねじれ				6月13日	【事前】配布プリントを予習	
⑧結論を先に述べる・事実か意見か				6月20日	【事後】⑦⑧の復習プリントに取り組む	
⑨(文章検)基礎力<語彙・文法>				9月26日	文章検定公式テキスト3級に目を通す	
⑩(文章検)読解力<文章構成等>				10月3日	文章検定公式テキスト3級に目を通す	
⑪(文章検)作成力<表現>				10月10日	文章検定公式テキスト3級に目を通す	
⑫(文章検)作成力<通信文>				10月17日	文章検定公式テキスト3級に目を通す	
⑬(文章検)作成力<意見文>				10月24日	文章検定公式テキストに目を通す	
⑭プレゼンテーション①				10月31日	【事前】プレゼンテーション課題について考察	
⑮プレゼンテーション②				11月7日	【事前】プレゼンテーション課題について考察	
使用テキスト: 必要に応じてプリントを配布する。 ⑨～⑬の授業では「文章検定 公式テキスト3級」をテキストとして使用する。				その他参考文献など: 文章検定公式テキスト4級および準2級		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この授業を通して、よい日本語表現をするための最低限のマナーを身につけよう。これだけ覚えておけば大丈夫だというポイントを押さえるので、しっかり覚えてほしい。講義内容の理解度、進捗状況に合わせて、講義内容を変更する場合もある。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名：基礎英語				担当教員 氏名：Richard Curtis		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	総合必修科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
For students to be able to hold a simple conversation, and to expand their vocabulary.						Basic English communication
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			Making the best use of what you have learned before plus trying to learn something new will lead to better command of the language.			
F チームワーク・リーダーシップ			Trying the best in playing your role is important in group activities.			
H コミュニケーション力			Positive attitude without being afraid of making mistakes is a MUST in building basic command of English.			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %		レポート: %		発表: 30 %		実技試験: %
その他: 40 %						
特記事項: Others will encompass classroom participation and attitude.						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: Group activities with presentations will be assigned in each period. Schedule for assessment is shown below.						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①Getting to know each other						
②Dates and Ordinal Numbers						
③Personal Information						
④Review						
⑤Likes and Dislikes						
⑥Counters and Singular / Plural						
⑦Wh- Questions						
⑧Can and Can't						
⑨Review						
⑩Simple Present and Describing Things						
⑪Family						
⑫Simple Past and Stories						
⑬Review						
⑭Jobs						
⑮Comparisons						
使用テキスト: Talk a Lot -Starter Book-				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): Everyone should expect to talk as much as they can. Hopefully we'll have fun, and your English will improve.						



社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名:基礎日本語				担当教員氏名: 林 宏美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	総合必修科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
基本的な日本語を駆使し、介護施設の職員として職場で必要とされるコミュニケーションを適切に行えること、および、日本での生活習慣、人間関係への適応能力を身につけること。また、現場の状況を報告できる能力を身につけることを目指す。					介護に関する語彙、会話技術、文法表現、叙述報告、漢字練習	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7. 8. 10		
A 知識・理解力		介護場面で必要とされる基本的な行動を知る。介護に関する語彙表現を増やす。				
C 論理的思考力		文体や語彙表現の使い分けを理解し、現場の状況や出来事を報告できる能力を身につける。				
G 倫理観		利用者や家族の心情を理解し、各テーマについて話し合うことにより、介護に携わる者としての倫理観を身につける。				
H コミュニケーション力		効果的なコミュニケーションを行うための会話技術を習得する。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項:「その他」においては、授業中の態度、課題の提出状況、出席率などで評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テスト、発表を行い、最終回の講義時間に総まとめテストを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 適宜小テストを行い、採点し返却する。会話については、発表時にフィードバックし、評価する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①入浴1 (コミュニケーションスキル:手伝いを申しする。文法: ~ばお手伝いしますのでおっしゃってください。)				【事前】翻訳ノートを読む。(入浴に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
②入浴2 (記述表現: ~時、~の手伝う。)				【事前】翻訳ノートを読む。(入浴に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
③清拭1 (コミュニケーションスキル:理由を説明し、提案する。文法: ~ので、~はやめておきましょう。代わりに~しましょうか。)				【事前】翻訳ノートを読む。(肌の状態に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
④清拭2 (記述表現: ~の~。)				【事前】翻訳ノートを読む。(肌の状態に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑤日常の声かけ1 (コミュニケーションスキル:体調を気遣っていることを示す。文法: やっぱり~よね。)				【事前】翻訳ノートを読む。(リハビリ・体調に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑥日常の声かけ2 (記述表現: ~てくれるようにお願いした。)				【事前】翻訳ノートを読む。(リハビリ・体調に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑦レクリエーション、活動の計画1 (コミュニケーションスキル:具体的な提案をする。文法: ~をもとに~。)				【事前】翻訳ノートを読む。(計画・相談に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑧レクリエーション、活動の計画2 (記述表現: ~というものである。~てくれると言っていた。)				【事前】翻訳ノートを読む。(計画・相談に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑨申し送り1 (コミュニケーションスキル:第三者への指示、伝言を申し送る。文法: ~ように伝えてください。)				【事前】翻訳ノートを読む。(連絡に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑩申し送り2 (記述表現: ~こと。あり/なし)				【事前】翻訳ノートを読む。(連絡に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑪物忘れの多い利用者への対応1 (コミュニケーションスキル:理由を言って、行動を促す。文法: もしかしら、~から、~しましょうか。)				【事前】翻訳ノートを読む。(物忘れに関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑫物忘れの多い利用者への対応2 (記述表現: ~く/に思っている)				【事前】翻訳ノートを読む。(物忘れに関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑬間食が多い利用者への対応1 (コミュニケーションスキル:言い訳をする。文法: つい~てしまう。)				【事前】翻訳ノートを読む。(味・間食に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑭間食が多い利用者への対応2 (記述表現: ~らしい。)				【事前】翻訳ノートを読む。(味・間食に関する言葉)【事後】漢字練習帳		
⑮まとめと試験				【事前】全体の復習をする。		
使用テキスト: 専門日本語入門 場面から学ぶ介護の日本語(凡人社) 翻訳ノート(凡人社ウェブサイト) 漢字練習帳(凡人社ウェブサイト)				その他参考文献など: 介護の言葉と漢字ハンドブック (一般社団法人 国際交流&日本語支援Y)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 将来、介護施設などで働く時に、日本語でコミュニケーションができるように、しっかり勉強してください。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 情報処理					担当教員 氏名: 中野 慎夫	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	総合科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
近年の医療・福祉の現場において、電子カルテ等をはじめとして急速に情報化が進み、情報化スキルの必要性が高まっている。この科目では、コンピュータやネットワークの基本知識を学習し、各種ソフトウェアの基本的な活用能力を演習をとおして修得する。					コンピュータ、ネットワーク、ソフトウェア、ワード、パワーポイント、エクセル	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 8.	
A 知識・理解力			・コンピュータ、ネットワークの基礎知識、情報リテラシーを理解する。			
D 問題解決力			・Windows7の基礎知識を学習する。			
			・文書作成ソフト「Microsoft Word」、プレゼンテーションソフト「Microsoft Power Point」、表作成ソフト「Excel」の基本操作を修得する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: 50 %	その他: 50 %		
特記事項:						
・上記、「その他」では授業の態度、授業中の課題演習の提出状況などで評価する。						
・目標とする活用能力の習得のためには、授業外の予習・復習が不可欠であり、アクティブ・ラーニングとして学生が主体的に関わる意識を持つことを重視する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業中後半に課題演習を行う。また授業期間の中間と最後に実技試験を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 授業中に出す演習課題については提出時に学生の前でチェックする。また実技試験については採点をして返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① コンピュータとネットワークの基礎知識の理解				【事前】インターネットについて調べる 【事後】①の復習		
② 情報システムの基礎知識の理解				【事前】情報のセキュリティについて調べる 【事後】②の復習		
③ Windows7の基礎知識と基本操作の理解				【事前】Windowsについて調べる 【事後】③の復習		
④ Wordによる文書作成(基本的な文字入力)				【事前】Word教科書を読む 【事後】④の復習		
⑤ Wordによる文書作成(案内状などの作成)				【事前】Word教科書を読む 【事後】⑤の復習		
⑥ Wordによる文書作成(表作成)				【事前】Word教科書を読む 【事後】⑥の復習		
⑦ Wordによる文書作成(高度な書式設定)				【事前】Word教科書を読む 【事後】⑦の復習		
⑧ PowerPointによる資料作成(箇条書き機能など)				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑧の復習		
⑨ PowerPointによる資料作成(図の作成)を実施				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑨の復習		
⑩ PowerPointによる資料作成(プレゼン資料の作成)を実施				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑩の復習		
⑪ PowerPointによる資料作成(高度なプレゼン資料の作成)				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑪の復習		
⑫ Excellによる表作成				【事前】Excell教科書を読む 【事後】⑫の復習		
⑬ Excellによるグラフ作成				【事前】Excell教科書を読む 【事後】⑬の復習		
⑭ Excellによるデータベース作成				【事前】Excell教科書を読む 【事後】⑭の復習		
⑮ Word、PowerPoint、Excellの基本操作を再確認する。				【事前】Word、PowerPoint、Excellの復習をする 【事後】⑮の復習		
使用テキスト:「できるWord2013」、「できるPowerPoint2013」、「できるExcell2013」(インプレスジャパン)				その他参考文献など: 情報リテラシー(noa出版) Officeソフトで作る文書ドリル全55題(noa出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業での演習時間が少ないので必ず予習・復習を行うこと。						